



シネマ 気球

第34号 200円

シネマ気球©
編集兼発行人 関田孝正
〒270-0107
千葉県流山市西深井339-2
TEL04(7153)1533
FAX04(7156)7122

「私の男」—二階堂ふみにも演技賞を！

実は、おじさん「私の男」を観るつもりはなかつた。本能的に避けていたといつたほうがいい。あやしい匂いを感じていたから……。

しかし、この映画、モスクワ国際映画祭で最優秀作品賞（グランプリ）と、主演の浅野忠信が最優秀賞をW受賞したと報道され、上映館に直行。

上映開始の冒頭シーン、画面は暗いままぎンギント舟をこぐような音だけが続き、やがて画面が明るくなり音の正体が流水の軋む音だとわかる。流水の海の中から手が出て一人の女子高生が氷上に這い上がってくる。カメラは彼女の表情をアップにし、画面右に小さくタイトル「私の男」が浮き出る。この導入はおじさん好み。

彼女の名は花。少女の時に奥尻島の津波で家族を失い孤児になる。高校生になつた花（二階堂ふみ）と男の生活の中に、徐々に怪しく歪んだ関係を暗示させる場面が展開される。それらをいやらしく感じさせないのが、北海道の冬の白い景色。

バス停から降りてくる養父を花が坂の途中で待ち、キスを迫るシーンは印象的。夜の台所で「お父さん……しよう」と、迫る花。登校前の朝食中に、花と肉体関係を迫る淳悟。このシーンはおじさんのお気に入り。

ついに二人の関係は一人の老人に窓から目撃される。

禁忌の関係をやめさせようとすむ老人は、流水の上で花に、本当は養父が実の父親だと打ち明けるが、花はすでに匂いで知っていた。父との関係を守るために、花は老人を流水に取り残し、海中に飛び込む。老人は流水の上で凍死。ここから二人の逃避行が始まる。

養父役の浅野が受賞したが、おじさんは花を演じた二階堂ふみの演技力に賞をあげたい。表情がいい。彼女は「ヒミズ」「地獄でなぜ悪い」にも出演していた。若いが素敵なお嬢だ。監督は「海賊市叙景」の熊切和嘉。

テーマは暗いが、映像がきれい。後半の墮落した淳悟と生活するゴミ屋敷はきついが、この映画には全編、様々な匂いが漂う。

2014年9月1日

N子「彼女なくしてこの無茶な作戦は生まれなかつたし、地球を救えなかつたかも。」
 N雄「他のミュータントでは体が面白ければなんでもあり?」
 N雄「舞台が2023年と1997年の地球という設定だつた。」
 N子「50年前の世界に、ローガン・ウルヴァリン(ヒュー・ジャックマン)の意識だけを移動するなんて、よく考えたね。」
 N雄「キティ・プライド! シヤドウキヤット(エレン・ペイジ)の能力を使って過去のローガンの体にな。」
 N子「彼女なくしてこの無茶な作戦は生まれなかつたし、地球を救えなかつたかも。」
 N雄「まあ、今はもう面白ければ

面白ければなんでもあります。」

N雄「センチネルは強かつたな。ミュータントでも敵わない。」
 N子「究極の破壊兵器で見るからに恐ろしいデザインだつたね。」
 N雄「そのセンチネルが生まれないようにする作戦。そうしないと地球は滅亡してしまう。」
 N子「老チャールズ・エグゼビア・プロフェッサーX(パトリック・スチュワート)も老エリック・レーンシャー! マグニートー(イアン・マッケラン)も仲たがいでる場合じやないよ。」
 N雄「物事の根源を断つという戦いは『ターミネーター』に似てる。母親を抹殺してしまえば未来に少年は生まれないという発想。」
 N子「過去を変えてしまうのはSFでは約束違反、おやつと思う展開もあるけど、そんな作品いっぱいあるしね。」
 N雄「まあ、今はもう面白ければ

N子「いい。なんでもりだからな。」
 N子「X-MENシリーズの時系列からいえば、『ファースト・ジェネレーション』が1960年代の話だから、その後の作品となる。」
 N雄「だから若チャールズ・ジエムズ・マカヴォイ)は傷つき、若エリック(マイケル・ファスベンダー)もケネディ大統領暗殺の容疑で監禁されている。」
 N子「ここがポイント。JFK暗殺が絡んでるのも興味深い。もつとも若エリックはケネディを救つたと言つたけどね。」
 N雄「若チャールズが足の薬を打つとテレパシー能力が使えなくなつて、人生を投げてる感じだ。」
 N子「精神的にもまいつている様子だつたね。ローガンがいろいろ说得してたけど。」
 N雄「なんとか作戦を成功させようと動くが彼が暴れるシーンが少なく物足りない。」

一番活躍した超高速移動男

N雄とN子のシネマ対談

『X-MEN フューチャー&パスト』
(監督=ブライアン・シンガー)

ミュータントは地球を救えるか!?

あの「ブライアン・シンガー」が、まだこのシリーズは結末を迎えていない。

持たないということだろう。」

いい。なんでもりだからな。」

N子「地球の未来がかかつてゐるから共闘しないとね、自分たちも滅んでしまう。」

N子「相変わらずローガンはかっこいい!」
 N雄「センチネルは強かつたな。ミュータントでも敵わない。」
 N子「究極の破壊兵器で見るからに恐ろしいデザインだつたね。」
 N雄「そのセンチネルが生まれないようにする作戦。そうしないと地球は滅亡してしまう。」
 N子「老チャールズ・エグゼビア・プロフェッサーX(パトリック・スチュワート)も老エリック・レーンシャー! マグニートー(イアン・マッケラン)も仲たがいでる場合じやないよ。」
 N雄「物事の根源を断つという戦いは『ターミネーター』に似てる。母親を抹殺してしまえば未来に少年は生まれないという発想。」
 N子「過去を変えてしまうのはSFでは約束違反、おやつと思う展開もあるけど、そんな作品いっぱいあるしね。」
 N雄「まあ、今はもう面白ければ

過去と未来が同時進行

N雄「それでも、若エリックはいつものように暴走する。巨大なスタジアムを動かしホワイトハウスを包囲してしまう。彼のパワーはすごい。」
 N子「センチネルも改造して操つてしまふ。もともと彼は人類との共存はないと思つてたから大統領たちを抹殺しようとする。」
 N雄「防いだのはレイヴン・ダークホルム! ミステイク(ジエニファー・ローレンス)。」
 N子「だつて、若エリックは彼女を殺そうとしたからね。」
 N雄「未来と過去が同時進行するのも切ない。彼は人生をわかれにくい。」
 N子「精神的にもまいつている様子だつたね。ローガンがいろいろ说得してたけど。」
 N雄「なんとか作戦を成功させようと動くが彼が暴れるシーンが少なく物足りない。」

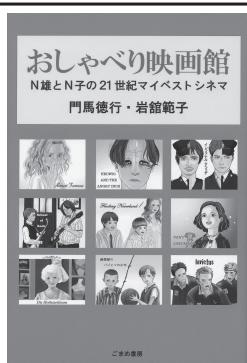
N雄「いろんなミュータントが出てくるが、出番が少ない。オールスターなのは間違いない。」
 N子「オロロ・マンロー＝ストーム（ハル・ベリー）もあまりなかったね。一番活躍したのは超高速移動ができるピエトロ・マキシモ＝クイックシルバー（エヴァン・ピーターズ）だね。弾丸をつまんだり軌道を変えたりしてた。」
 N雄「シンガーは彼を相当気に入つたようだ。」
 N子「登場シーンがやたら長かつたね。」
 N雄「空間に穴を開け瞬間移動を容易にするクレア・ファガーソン＝ブリンク（ファン・ビンビン）も活躍。」
 N子「青い獣人ハンク・マッコイ＝ビースト（ニコラス・ホルト）もいたね。」
 N雄「今回は、何と言つてもレイヴンの行動が要だつた。彼女はひとりでミュータントを排除する人類と戦つてる。」
 N子「最後、レイヴンが大統領やトラスク（ピーター・デインクレイジ）を撃てば世界は終わつてたわけ？」
 N雄「その因果関係が曖昧だな。彼女の気持ちもわかるが。」

N子「ただ、若チャーレズの説得を良く受け入れたね。彼がちゃんとレイヴンのことを認めてたら撃たなかつたのか？」
 N雄「ここは弱いと見た。作品の肝だから、もつと適格に撮つて欲しかつた。」
 N子「結局、レイヴンが地球を救う。もつともラストは元の世界になつたけどね。」
 N雄「学校もあり、みんな生きていた。あのジーン・グレイも。が、オチが安易すぎる。」
 N子「泣かせたね。ローガンの恋敵もいたし。」
 N子「ただまだ話は続くが、人類の手前にいろんな物を持つてきていたけどね。」
 N雄「過去のローガンの爪がアダマンチウムではないんだな。」
 N子「この後だからね、そうなつたのは。金属探知機に引っかかるので首をかしげるローガンが愉快。」
 N雄「ローガンの裸を見せたのも、さすがゲイのシンガーらしい。」
 N子「男をきれいに撮るよ、この

N雄「エンドロール後の映像を見ると、また続編がありそうだな。」
 N子「今度は古代エジプトの話にトがでてくるそうよ。」
 N雄「アメリカでは大ヒットらしい。もともとこれってマイノリティを守る話。X-MENは、そこが原点だろうな。」
 N子「黒人弾圧が激しかった頃に、原作のコミックが完成してるので、何も関係ではないよね。」
 N子「ユダヤ人差別とかも話の土台になつてることは間違いない。」
 N雄「奥の深いところが見どころのひとつだね。」
 N雄「まだまだ話は続くが、人類が彼らを排除しようとするかぎり〈共存〉は難しいのです。」
 N子「ともあれ、X-MENの奮闘で地球は救われたわけだから、彼らに感謝しないとね。」
 ※採点 N雄(88点) N子(90点)

『おしゃべり映画館』

シネマフリークN雄とN子による映画対談集。21世紀10年間のベストシネマ147本を語り尽くす。映画ファン必携！あなたのベストシネマは？



著者：門馬徳行、岩館範子
 定価：464円（税込）
 ご注文は、ごまめ書房まで
 041715617121

映画を観た後のお喋りは楽しみです。それも観た直後、また映画の余韻が残つてゐる状態での感想は貴重だと思います。その作品が面白いとかつまらないというのは観た人の自由です。いろいろな感想があつて当然、独断と偏見があつてあたりまえでしょう。そこで、せつかく観たのだから2人でお喋りをして点数をつけてしまふということになりました。（本文まえがきより）

シネマ・ギャラリー 12

鶴田 聖



〔描き手からの蛇足〕 今回は西部劇を集めたイラストにしようと始めてみたものの、1ページではとても納まりそうもない（「荒野の七人」と「続・荒野の七人」だけで埋まっちゃいそ）。そこでまずは“西部劇の神様”ジョン・フォードの作品で…と描き進めていく間に、御覧のとおり半分が西部劇以外の題材になってしまったのでした。

左上から時計回りで作品名と俳優名。左上女性「わが谷は緑なりき」モーリン・オハラ。「駅馬車」ジョン・ウェイン。3人の遠景「三人の名付親」。軍服姿の女性「黄色いリボン」ジョン・ドラー。向き合った男女「荒野の決闘」ヘンリー・フォンダとキャシー・ダウンズ、その間にジョン・フォード。紺創膏の2人「ドノバン珊瑚礁」ジョン・ウェインとリー・マーヴィン。帽子のおばさん「怒りの葡萄」ジェーン・ダーウェル。左下の走っている男「リオ・グランデの砦」ジョン・ウェイン。その右、帽子の男「男の敵」ヴィクター・マクラグレン。軍服の男「ミスター・ロバーツ」ヘンリー・フォンダ。黒人男性「バファロー大隊」ウッディー・ストロード。中央は「静かなる男」ジョン・ウェインとバリー・フィットジエラルド

現実と映画について極めて私観的な思いを書こうと思います。映画というのは、必ずしも現実を直接に描き出すことを目的としているわけではないと思いますが、現実の存在無くして映画は成り立たないものだと考えています。現実に起こっている事象をなぞつたり、奇想天外過ぎて現実には起こり得ない映画にしろ、そこには人間の無限の可能性を秘めているという想像ぐらいは出来ました、今まで。

私は団塊世代と言われる世代の尾つぽにぶら下がっている年齢で

通りしてきたつもりです。映画の中の主人公に共感出来なかつたり、異常だと思つたりする映画も、それなりに観ることは出来たのです。何しろそれは映画の中の出来事ですから。

ところが、最近歳のせいですべての感覚が鈍つて来たのか、映画ではなく現実に起きていることにについていくら考えても分からぬことが多くなりました。

東北地方を襲つた三年前の大地震で壊れた原発のことをすっかり忘れたように、再び原発を再稼働させようとしたり、未だ福島第一原発の收拾がついていないのに、その原発技術を他国に輸出しようとしている社会、自衛隊を軍隊に格上げして戦争が出来る国にしたいのか、自主憲法をと叫んで憲法を変えようと画策してそれがかなわなければ憲法解釈見直しに執念を燃やした我が国の首相。一見誠実そうに見える首相の異様な情熱等々が私にはどうしても理解出来ないのです。1964年公開のス

今、現実が映画を凌駕し始めている?

堀江広子

す。世の中の様々な出来事を見たり聞いたり経験したりを（広いと言えない行動範囲で、豊かと言えない生活圏で、高いと言えない能力的レベルの範囲内ですが）一通りしてきたつもりです。

映画の中の主人公に共感出来なかつたり、異常だと思つたりする映画も、それなりに観ることは出来たのです。何しろそれは映画の中の出来事ですから。

ところが、最近歳のせいですべての感覚が鈍つて来たのか、映画ではなく現実に起きていることにについていくら考えても分からぬことが多くなりました。

私は、スポーツはストレージギングしかしておりませんが、テレビでスポーツ観戦するのは大好きで、マラソンが始まつて、サッカー、バレーボール、テニス、卓球、陸上、体操など応援したい選手もたくさんいます。

今年はサッカーW杯の年だったので、熱心に観ていました。けれどテレビに映し出される熱狂的な街に繰り出し、日本頑張れなどモンストレーションしたりしてい

タナリ・キューブリック監督による「博士の異常な愛情」という映画がありました。アメリカ空軍の最高司令官が精神に異常をきたし、政府や科学者などを巻き込んでついには核による地球の滅亡へと進んでしまう内容だったと思います。

50年前に作られたシニカルでブラックユーモア満載のこの映画を、単なる映画として観れない状況には小説より奇なりと誰が言つたのか知りませんが全くもつてその通りだと考える他ありません。

私は、スポーツはストレージギングしかしておりませんが、テレビでスポーツ観戦するのは大好きで、マラソンが始まつて、サッカー、バレーボール、テニス、卓球、陸上、体操など応援したい選手もたくさんいます。

今年はサッカーW杯の年だったので、熱心に観ていました。けれどテレビに映し出される熱狂的な街に繰り出し、日本頑張れなどモンストレーションしたりしてい

感を利用しようと権力が動いたとされた場合に、従いませんと毅然とした態度を私はとれるだろうか、それないかも知れないと感じたのです。

首相の考えていることが理解出来ないとか、大観衆の興奮が何とか怖いとかぼんやりばやいでいるうちに、現実は自分の想像をあつさり越えてのっぴきならない所まで行つてしまふのじやないかなどと心配をしてしまいます。

この世から消え去つてしまえばそんな心配から解放されるのだから、自分の寿命が早く来てほしいと思うときもあります。

サスペンス、アクション、エロゲロ、B級、C級、喜劇、悲劇、メロドラマ、何でもありの映画の世界より、いつそう魑魅魍魎うごめいているこの現実の方が恐ろしいこの頃です。それでもこのようない現実世界をとらえきつた日本映画を見られたらなあと夢見ていました。



人間は寝ている間に様々な夢を見る。そのほとんどは記憶する前に内容を忘れてしまうというが、忘れるどころか心に刻まれてしまつた、映画にまつわる夢の記憶をご紹介。夢なので多少内容は異なるが、大筋は映画の影響をダイレクトに受けている。

夢その一『ザ・フライ』

小学校低学年の頃は、学校に行くのが嫌いで、よく体温計を脇の下で擦り、37度の微熱を装つてずる休みをしていた。そんな悪知恵を知る由もない母は、手厚い看護で学校を休ませてくれた。皆が学

イラスト & エッセイ

夢に出てきた映画のシーン

中田好美

卷之三

校へ行つてゐる間に見るテレビは何とも特別な氣分だつた。その時スター・チャンネルで放送されていて、たのが『ザ・フライ』だつた。(この作品を観た後、学校にちゃんと行けばよかつたと後悔するほど、とても布の作品だつた。

物質転送実験の際、転送ボットの中に入間と一緒に蠅が入つてしまい、遺伝子レベルで蠅と人間が融合してしまうというものの。

いきなり蝶に変わってしまうのではなく、身体能力の上昇や皮膚の変化など、じわじわと描写する過程が観る者を嫌な予感へと誘う（私は事の口で眞理に向つて）。

私は夢の中で蝶男となってしまった。科学者のセス・ブランドル（ジエフ・ゴーラードブラム）に成り代わっていた。鏡に写る自分の醜い姿を見ながら耳に触れると、ネツチャヤリと顔から剥がれ、ベチャツと床に落ちた。「ギヤーッ！」と口を開けると、歯もポロポロと抜け落ちた。その瞬間、恐怖のあまり飛び起きた。私は慌てて耳を触り、歯を舌で確認し、ほっとした。「耳も歯もあつた……」。

覚えてているのは夢の記憶で映画の細かい内容は忘れてしまった。夢と映画の内容を照らし合わせる行為、久しぶりに観てみたが、幼い

頃トラウマになつた理由がよく分かつた。エイリアンやゾンビよりも恐ろしい、感染や強大な敵ではなく、変態。

蠅に不必要的身体の部位が膿のような体液を出しながら剥がれ落ち、強力な消化液を口から出して食べ物を溶かす。完全な蠅の姿になる際は顔が割れ、目玉や手足の肉片がボトボト落ちる。これは低学年で観る作品ではないなと改め思うのであつた。

だと思い込んで借りたのが、悪夢の始まりであった。

本編終盤に行われる晩餐会のシーン。パツカリと開かれた頭部からむき出しになる脳みそ。その一部を切り取り、本人に食べさせるというインパクトのあまり、地上波ではカットされてしまう。グロテスクな表現に當時まだ耐性が無かつた為、ショッキングな脳みそのシーンで頭が一杯になってしまつた。

アカデミーメイクアップ賞を受賞したこの作品。グロテスクな表現でも大丈夫という人には、作り込まれた蠅男の凄まじい形相をぜひ観てほしい。歯が抜ける夢は何度も見たけれど、耳が剥がれ落ちる夢はこれが最初で最後であった。

夢の二『ハンニバル』

『羊たちの沈黙』の続編となる今

作では、ハンニバル・レクター博士（アンソニー・ホプキンス）への復讐を目論む元患者であった、マイク・ヴァージャー（ゲイリー・オールドマン）を軸に物語は展開していく。

いつ頃借りたのか忘れてしまつたが、粗筋などをよく読まずに手に取つた事は覚えている。ジャケツのイメージで、悪魔憑き映画

ろう……。と次の瞬間目が覚めた。いや、脳みその味なんて知る筈はない。でもこの味はたしか……。そうだ、白子だ。そういうえば家族で旅行に出掛けた際、その旅館で出した料理が白子のお吸い物だったのだ。見た目の悪さに私は遠慮したのだが、美味しいと勧める祖母に言われ食べたのであった。お椀に浮かぶ白子が脳みそに見えてしまった過去の記憶と結び付き、味まで再現されてしまったのである。

その後、脳みそを食べる習慣があるのか気になり調べてみると、

牛、豚、羊、猿などの脳みそを食用として食べるらしい。味も動物により異なるが、クセのあまり強くない脳みそは、白子の味に近いのだと。脳みそがパツク詰めされているのを見ると、人間の食へてある。白子は魚の精巣であるが、当時、白子をその部位と知らずに美味しいと食べていた。母も内臓の一種と思っていたらしく、「嘘でしょー」と何度も言つた。確かに知らない方が美味しく食べられる物もあるかもしれない。何も知らされず、食卓に脳みそが並んでいたら、人々は美味しいと舌鼓を打つんだろうかと一人考え

るのであつた。

夢その三『パッショーン』

イエス・キリスト（ジム・カヴィーゼル）が十字架に打ち付けられ、復活するまでの受難を映像化した作品である。

作品を観たのは数年前、自宅にて安静期間中の事であつた。

この作品の拷問シーンを直視するのは精神的にかなりきつい。ムチ打ち刑の一打一打をしつかりと映像で見せるので、とにかく痛い。

ムチ打ち刑のシーンは背中を中心に戻し、画面の切り替えがほとんど無い。背中の傷が重ねられ、血がしたり、皮膚が痛々しく剥がれていくのを延々と観なければならぬ。やつと終わりかと思つていたら、ムチの先端が複数に分かれ、鋭利な金属片などが付いた物へと替える。これを傷だらけの背中に更に打ち付けるのだから、観ているこつちが參つてしまふ。凄惨な刑を指と指の間からチラ見をして何とか耐えていた。一番嫌だつたのは脇腹にムチの先端が引っかかり、引いた勢いで削がれた肉片が宙を舞うシーン。もう痛すぎ

て、観終えた後のどつとした疲れが忘れない。

そんな夜に見てしまつたのが、

まさかの拷問を受ける夢。

夢の中、ふと気がつくと、手を鎖でつながれ、辺りの床は血まみれになっていた。姿形は自分自身。全身の脱力感と、立ち込める鉄の臭いを感じていた。なぜこんな事になつているのだろう、とぼんやりしていると、背中に勢い良く何かがあたり、「ウツ！」と一瞬息が止まる。背中に強打を受けたような、なんともリアルな痛みを感じ、目が覚めた。背中にはズキンとする疼痛が残つていた。

背中に感じるこの痛みは、その当時受けたブラッドパッチ療法の痛みであった。そう、私は交通事故の後遺症で漏れた髄液を塞ぐため、背中の脊椎硬膜外腔に針を刺し、自分の血を注入するという治療を受けていたのである。針を刺す際、麻酔を打つのだが、この漏れてしまつた。その後、自分の家族に男氣があるとからかわれる不気味な噂話。しかし、それは現実で起こる不可解な死を遂げた人々に繋がる、決して終わる事の無い、呪いの連鎖であつた。

夢その四『リング』

一本の呪いのビデオから広がる不気味な噂話。しかし、それは現実で起こる不可解な死を遂げた人々に繋がる、決して終わる事の無い、呪いの連鎖であつた。

当時借りたのがビデオテープだったので、作品の要となる呪いのビデオと結び付き、映画のクライマックスを夢で丸々見てしまつたのである。

夢なので周りの風景は自分の家になつっていた。ふとテレビに目をやると、勝手に電源が入り、ザーッという砂嵐の後、薄暗い井戸が

げると、それ以上入らないとの事で注入は終わった。

確かに治療は痛かつた。けれどなぜ『パッショーン』のムチ打ち刑のシーンと治療の痛みが夢で繋がつてしまつたのか。治療時はストレッチャーの上に横になり、膝を抱えるよう背中を丸め、左手は点滴、右手は採血となる。身動きがとれない様が手枷のようを感じ、部位が同じ背中だつたからだろうか。改善した今は、そのような悪夢にうなされる事は無くなつた。

悲惨な作品は、心身ともに健康な時に観るものだと痛感するのであつた。

2014年9月1日

映る。そして井戸の中から、貞子がゆらりゆらりとこちらへ向かって来るのである。恐怖のあまり布団の中に隠れようとするが、身体が思うように動かない。テレビから這い出てきた貞子が私の布団の上にゅつくりと覆い被さる。その時のずつしりとした重さがリアルで、逃げたくても身体が動かず逃げられない。「早く、早く逃げなければ！」そんな危機感の中、はつとして目が覚める。すると、生まれて初めて金縛りに遭ってしまった。声も出せず、身体も動かせず、ただジッと天井を見る事しか出来なかつた。

そういえばこの作品を観る前に、祖母や親戚から兄妹それぞれに預かれたお年玉を兄に渡さずこつそり使い、大きめのテレビに買い替えていたのであつた。それまでは人など出て来られない、小さいテレビだつたのに。

貞子の夢を見たのは2回で、何と2回目も金縛りに遭つてしまつた。引っ越してベッドになつても貞子は這い上がつてきた。貞子の夢を見た後は、仄暗い階段下や、鏡越しに映る薄暗い廊下などが怖くてたまらなかつた。

とある番組で中田秀夫監督が撮

影手法について話していた。それは場面を撮る際、人物の背景に余白を作る事で、何かが起ころるような不吉な予感を感じさせるという。そんな恐怖が私の日常生活にまで影響してしまい、貞子が背後にいるかもしれないという思いに、何度もびくびくさせられた。

井戸から出てくる貞子のシーンは、後退りで井戸の中まで戻つていくよう撮影され、それを逆再生して使つている。人間が通常しない身体の動きでこちらに迫つて来る所以、そのぎこちない動きが、何ともいえぬおどろおどろしい雰囲気を作つていたのである。二度ある事は……いや、もう決して見たくない恐ろしく呪われた夢である。

夢その五『となりのトトロ』

療養中の母を環境の良い土地で迎え入れる為、自然豊かな土地へ

と引っ越ししてきた草壁一家（父、サツキ、メイ）。サツキとメイがある日出会う、不思議な生き物との触れ合いを通して、姉妹の成長と家族愛を描いたファンタジー作品。

小学生の頃、テレビで放送されているのを観ながら、オープニングテーマとエンディングテーマを夢中になつて歌つていた。近所の

公園でどんどんぐりを沢山集めて庭には芽が出てくるのをわくわくしてゐる。そこで、自分が見たいのを思い出す。

夢の中では、迷子になつて迷ひを解消するメイをサツキが懸命に探すシーン。感情も姿もサツキそのもので、不安で泣き出しそうな思いが私の胸を締め付けた。メイを見つからず、どうしようもなくなり泣いていると、私の前にネコバスがフツと現れた。ネコバスの入り口がムニョーンと伸び、ふわふわの床に足を着けた。その時の温もりは生き物の温かさで、素足で傷ついた足や体を優しく包んでくれた。ネコバスが走り出すと、頬をなでる風が心地よく、窓から見える夜の景色がとても綺麗だった。なん

くしてから目が覚めた。

憧れのネコバスに乗れたのが本当に嬉しかつた。きっと作中で描かれているネコバスのふわふわした毛並みや、呼吸とともにゆつくりと上下するバスの内部が、生き物としての温もりを感じ、現実にいるのではないかという想像力を刺激されたのだと思う。小さい頃から猫と触れ合つていたのも関係ある日偶然手にした一冊の本が、彼の心を動かしてゆく。

夢その六『ネバーエンディング・ストーリー』

早くに母を亡くし、学校でははじめられてしまうバスチアン（バルレット・オリバー）。そんな彼の楽しみは本の世界に没する事だつた。幼稚園の頃、テレビで放送されているのを観て、その日の夜に見

ていて、夢を今でもはつきりと覚えている。それはラッキードラゴンのアルコンに股がり、空を自由に飛び回る夢であつた。アルコンの毛がふわふわしていて、夢の中で

み込むふわふわの手触りが忘れられないとしても幸せな夢だつた。

今でもトトロは大好きなキャラクターで、どんどんぐり共和国というジブリのショップに立ち寄ると、かわいいトトロを手に取つてしまふ。どんどんぐり共和国には、どんどんぐり銀行というものがあり、どんどんぐりをお店に持つて行くと貯める事が出来る。100どんどんぐり貯めると、苗木1本と交換出来たり、代理植樹をしてくれるという。こうした作品に繋がる発想がとても素敵だと共感するのであつた。金曜ロードショーで放送される度に観てしまう大好きな作品だ。

触れた感触は、お気に入りの犬のぬいぐるみと同じ手触りだった。久しぶりにもう一度借りて観てみたが、ファルコンに股がる少年の楽しそうな表情がとても良かつた。風でなびく髪が疾走感を生みた。



小さい頃はよく空を飛ぶ夢を見た。地面からふわりと体が浮き、敵な作品だ。

出し、ファルコンのつぶらな瞳や表情がよく作り込まれている。子供ながらに楽しそう！自分も乗りたい！と憧れたのだろう。当時は理解出来なかつたが、子供の夢見る心が無くなつてしまふと、ファンタジエン（本の世界）が崩壊し虚無になつてしまふというテー

マも奥が深い。現実に世界中の人々が夢を見たり、イマジネーションを無くしてしまった。世界は本当に滅びてしまうかもしれない。世界中の夢を見るといつも見つかる夢ばかりで、奈落の底に落ちる夢。銃で打たれ、エイリアンから身を隠し、ゾンビと戦い目が覚める。一つのジャンルに偏らず、ファンタジーやヒューマンドラマもよく観るのに、なぜか夢で見てしまうのは、危機感満載のバトル映画。なぜそのような夢ばかり見てしまうのか、気になつたので調べてみた。

睡眠中の脳は見聞きした情報について、何を覚え、何を忘れるのかを計算しているという。とある実験データによると、前景側に大破した車、背景側にヤシの木の場面を見た際、細かいところまでしきりと記憶しているのは、感情に素敵な作品に出会えるというのは、とても幸せな事だ。作品に入り込める純真な心は、何よりの宝物だと思う。夢見る子供達にぜひ観てほしい素材だ。

幸せな事だ。作品に入り込める純真な心は、何よりの宝物だと思う。忘れてしまうという。一晩眠るとさらにその傾向が顕著であるとのこと。脳の中で感情や記憶固定に関係する部位は、覚醒時より睡眠時の方が定期的な活動を活発に行っているという。記憶には様々な可能性ある未来を事前に予測するという意味もある。ニュースなどで日常的に見聞きする出来事においても、危険や恐怖、不安などに現実で対処出来るよう、睡眠中に情報を整理し、記憶しているのかもしれない。

ゾンビやエイリアンと戦う日は来ないと思うけれど、夢に出て来た作品が私の感情に強く訴えた事は間違いない。恐ろしい夢を何度も見ている百戦錬磨の勇士達は、ちよつとやそつとの怖い夢では動じない強さを身につけているかもしれない。そういう意図で、未だに怖い夢を見てしまう私は、まだひよつこの夢見習いなのかもしれない。夢の内容を思い通りに変化させられるという明晰夢。そのような夢を見る事が出来ればいいのだと、理想の夢を夢見ながら今日も眠りに就くのであつた。

2014年9月1日

「オズの魔法使い」と元AKBの増田有華

関口健一

のシーンを上手く使い分けている。
そのことに関しては、後ほど書くことにしよう。

14歳の少女ドロシーは、いつも自分の家の周りで遊んでいた。ほのかの町には、行かなかつた。そんなドロシーは、虹の彼方に行きたいという夢を抱くようになった。

ある夜突然竜巻が起き、ドロシーは家ごとどこかの森の中に飛ばされてしまう。竜巻で家が飛ばされたあと、何故か家中には誰もいなかつた。ドロシーは、ドアを開けて森の中を歩き出した。

ここまでではスクリーンはモノクロだったが、突然カラーになる。ドロシーが森の中を歩いていると、道に迷つてしまい家に帰れないくなつてしまふ。そこに妖精が現れて、森を抜けた所にどんな願いでも叶えてくれる大魔王ウイーズのことをドロシーに教える。そして妖精はドロシーに、銀色の靴をあげる。ドロシーが妖精にウイーズの所への行き方を聞くと、道なりに進つて森を抜ければウイーズの所へ行けると妖精は応える。これで家に帰れると思い、足が軽くなる。

ウイーズの所へ行く途中でドロシーは、知恵がほしいカカシと心がほしいブリキ男と勇気がほしいラ

映画の「オズの魔法使い」を見たいと思ったのは、ミュージカル「WIZ」オズの魔法使い」との違いを知りたかつたからだ。「WIZ」オズの魔法使い」とは、オズの魔法使いをブロードウェイで上演したミュージカルだ。日本では、2012年9月に宮本亜門演出で上演している。

この映画は、1935年公開。約80年前の作品だ。全編ではないが、カラーだ。当時としては、画映画はモノクロのシーンとカラー

イオンに出会う。そしてドロシーは、カカシとブリキ男とライオンと一緒にウイーズの所へ行こうと誘う。

3人は願いを叶えたいから、自分家の周りで遊んでいた。ほのかの町には、行かなかつた。そんなドロシーは、虹の彼方に行きたいという夢を抱くようになった。

3人は願いを叶えたいから、自分家の周りで遊んでいた。ほのかの町には、行かなかつた。そんなドロシーは、虹の彼方に行きたいという夢を抱くようになった。

3人は願いを叶えたいから、自分家の周りで遊んでいた。ほのかの町には、行かなかつた。そんなドロシーは、虹の彼方に行きたいという夢を抱くようになった。

3人は願いを叶えたいから、自分家の周りで遊んでいた。ほのかの町には、行かなかつた。そんなドロシーは、虹の彼方に行きたいという夢を抱くようになった。

3人は願いを叶えたいから、自分家の周りで遊んでいた。ほのかの町には、行かなかつた。そんなドロシーは、虹の彼方に行きたいという夢を抱くようになった。

4人でウイーズの所へ向かつている途中、邪悪な魔女イヴィリーンに邪魔をされてしまう。4人でイ

ライオンはおりに入れられ、知恵がほしいカカシが森の中の木に縛られてしまう。そこに気づいたドロシーは、二人を助けイヴィリーンの元から逃げようとする。

だがイヴィリーンに見つかり、三人を追つて来る。逃げる途中ドロ

シーがバケツにつまずき、バケツに入つていた水がイヴィリーンにかかるてしまう。そして、イヴィ

リーンは息絶えて死んでしまう。

ウイーズは、簡単に願いを聞いてくれなかつた。実は邪悪な魔女イヴィリーンを退治したかった。

そのことをドロシーたちに話した。

そしたら、ドロシーが「イヴィ

リーンなら、もう私たちが退治して来ました！」とウイーズに話した。

ドロシーの話を信じたウイーズは、

イオンに出会う。そしてドロシーは、カカシとブリキ男とライオンと一緒にウイーズの所へ行こうと誘う。

この場面は、驚くほど宮本亜門と一緒に行くことにする。

森の中のセットが、カラフルでメルヘンチックだ。草花が大きくて、まるでディズニーランドの「WIZ」オズの魔法使い」はドロシー役が元AKB48の増田有華で、カカシをDA PUMPのISSAが演じていましたが、増田有華とISSAに見間違えるほどよく似ていました。

ウイーズが住む城にやつとの思いでたどり着く。城の中はガランとしていた。棚に一枚の鏡が置いてあつた。その鏡の中で笑う不気味な顔。それがウイーズだった。

鏡に映つたウイーズのシーンは、よくできている。ウイーズの顔の不気味さと、迫力が表現されている。まるでCGのようなシーンだ。

CGがない時代に、あれだけの特撮はすごいと思った。

ウイーズは、簡単に願いを聞いてくれなかつた。実は邪悪な魔女イヴィリーンを退治したかった。

そのことをドロシーたちに話した。

そしたら、ドロシーが「イヴィ

リーンなら、もう私たちが退治して来ました！」とウイーズに話した。

ドロシーの話を信じたウイーズは、

知恵が欲しいカカリにこう言つた。

「知恵がなければ、邪悪なイヴィリーンに勝てない」と言い、カカリに知恵があることに気づかせる。次に、心が欲しいブリキ男に「心がなければ、仲間と協力し合つて邪悪なイヴィリーンを退治できな

い」と言い、ブリキ男に心がある

ことに気づかせる。勇気が欲しい

ライオンには「勇気がなければ、

邪悪なイヴィリーンに立ち向かつ

ていけない」と言い、ライオンに

勇気があることに気づかせる。家

に帰りたいというドロシーの願い

だけは、ウイズには叶えることは

できなかつた。家に帰れなくなつ

たドロシーは泣いてしまつた。

泣いていたドロシーの横に優し

い魔女グリンダが現れて、ドロシ

ーが履いてる銀色の靴に魔法をか

ける。そして、ドロシーに「かか

とを3回鳴らせば、家に帰れる」

と教える。ドロシーは喜んで、か

かとを3回鳴らした！

気づいたら、ドロシーは家の庭

先で眠つていた。ドロシーは、夢

を見ていたのだ。

ここで画面は、モノクロに戻る。

オズの魔法使いという映画は、ドロシーの夢の中の場面をカラーで表現して、それ以外をモノクロ

で表現している。その表現の仕方が上手いと思った。

ドロシーは、両親に家の中に拘り込まれた。ドロシーは目が覚めぎ込まれた。両親と抱き合つてこの映画は終わる。

映画と舞台版とのちがい

映画「オズの魔法使い」と、ミュージカルの「WIZ」オズの魔法使いとの違いは何だつたんだろうと考えた時、「WIZ」オズの魔法使いのドロシーは妄想好きだということに気づいた。

映画「オズの魔法使い」とミュージカル「WIZ」オズの魔法使いとの違いは夢と妄想の違いだったのだ。

ミュージカル「WIZ」オズの魔法使いは、脇を固めるキャストも豪華メンバーでした。例えれば、ウイズ役に陣内孝則。邪悪な魔女イヴィリーン役に森久美子。良い魔女グリンダ役に小柳ゆきでした。

更に、スタッフも豪華メンバー。

訳詞が森雪之丞。振付が仲宗根梨乃。美術担当は、増田セバスチヤンだ。仲宗根梨乃は、KARAやマイケル・ジャクソンの振付もやっている世界的にも有名な振付

師。増田セバスチヤンは、建築物の設計も手がけるデザイナー。い

ちばん有名なのは、きやりーぱみゅばみゅのステージと衣装のデザインをしていることです。だから「WIZ」オズの魔法使いの舞台のセットも、どこかきやりーぱみゅばみゅつかつたです。

そして、バックダンサー陣も本場のブロードウェイでやつている人たちでした。バックダンサーの人たちのダンスの場面は、迫力がありました。

増田有華がなぜいいか

わたくしがミュージカル「WIZ」オズの魔法使いを見に行つたのは、ドロシー役が増田有華だからだ。わたくしは、増田有華のファンなのだ。

わたくしが増田有華を知つたのは、2012年3月1日の「奇跡は、アンドリーバボー」というテレビ番組だ。笑うことが人間にとつていかに大切なことを検証する回で、事例として増田有華の幼少期のことを紹介していた。

増田有華は幼少期に、ある病気をしていて。何度も手術をするほどの大病だ。両親の懸命な看病の甲斐もあつたが、有華は辛い治療

を笑顔で受けたと紹介されていた。

そしてテレビの画面では、AKBの劇場で歌つて踊つている放送医者にある病気だと告知されたのだ。細かくいえば違う病気だが、

大まかにいえば増田有華と同じ病気だつた。病名は伏せておくが、

その病気に対するイメージは「治らない!」、「死が待つていて!」というイメージしかなかつた。だから、AKBの劇場で元気に歌つて踊つている増田有華の姿は衝撃的だつた。そして、わたくしも病気になつて過ごして行きたい！増田有華に元気をもらいたい！と思つたのだ。ファンになつたら元気をもらえるかもしれないと思つたのだ。

増田有華の魅力は、パンチの効いた声量と切れのあるダンスと役になりきる演技力だ。この3つの良さを一度に見られるのはミュージカルだ。

増田有華は、体が少し弱い。それは多分、幼少期に患つた病気の後遺症から来ているのだと思う。だから、国民的アイドルグループで忙しい思いをするより、自分の

才能を生かしたミュージカル女優になつた方が良いと思っていた。ちよつとしたあやまちが原因でAKBを辞めてしまつたが、増田有華が自分の才能に気づいた上で辞めたのだ。増田有華が自分の才能に気づいたことは、ファンとして嬉しく思つた。増田有華がAKBを辞めて2年が経とうとしている。今は、舞台を中心に女優として活躍している。AKBを辞めた今もファンとの触れ合いを大切にしてくれているのは、ファンとして嬉しいかぎりだ。

「オズの魔法使い」には、どんなことでも自分を信じて努力すれば願いは叶うというメッセージが込められている。元気と勇気をくれる物語だ。

宮本亜門演出のミュージカル「WIZ〜オズの魔法使い」は増田有華の出世作だ。だから、「オズの魔法使い」に思い入れが強いのかも知れない。

読者から

警備員室異状なし 第1回

農律捨丸

拝啓 関田監督様。返信、いや投稿遅くなり、申し訳ございません。何としても日本の映画界に私を売り込まなくてはの一念でこのプロポーズを始めた、もはや数年の月日が経ちました。まず、このチャンスを頂けましたことに御礼申し上げます。さて、この報告の内容ですが、いざ自分をプレゼンさせてもらおうとする、恥ずかしながらも相変わらず取り柄なく、ほとんど表現すべきものが見当たません。それで、考えた挙げ句に、近況を少しばかりモノローグさせて頂こうと思います。

関田監督！世の中は面白いことが多いで。三月から始めた某県立公園の夜間巡回の仕事が、私にとっては目下のそれで、ここで出つくわす出来事や人物にびっくりしたり、腹を立てたり、大笑いさせられたりしていると、自分が現在首を突つ込んでいる世界が広いのか狭いのか、何ともよく分からなくなるくらいですよ。
（報告）一 世の中に、親の七光りのありがたさを語る人は多いし、

息子は3ヶ月後に、隣りの職場へと転職しましたが、親はいまも残っています。こんな、「前例がない」代交制職場に父子二人で組み込まれている状況がありました。

（報告）二 その親は、やはり長ら出しても、映画を見ていません。映画にひざガクガク症となり、数分間も席を立てない体験をして以来、映画館へはほとんど行つていません。

（報告）四 一方で、Y市の旧市街に、青少年施設でのコーディネーターの仕事も、ダブルワークとして継続しています。こちらは、「どうしようもない細民の子どもたちばかり」。その、生きたアニメモナイトぶりを採集しているかくまえに「ダンス・ワイズ・ウルブズ」を見て、感激のあまり、黒澤明が描き残した人間風景。昨日も一昨日も、ここでは、今春中學を卒業したばかりの子たちが、七週間の鑑別所づとめから出て来る仲間を迎えるために集まっています。

おつと、監督。もう次の巡回の時間になりました。それでは、今夜もまた、警備員室「異状あります」。

実際、それで総理大臣にまで出世してしまう人もあるくらいですが、私の場合は、息子の七光りのおかげでこの巡回警備の仕事に就きました。というのは、息子が先に採用されたところで、「おやじにピッタリだ」とすすめられ、自分も

（報告）三 五月某日。夜の警備員室に、「私を殺してください」という二十代の女性が現れましたよ。WY（ダブル・ワイ。暗号名か）と名のるのですが、その場では、「それは出来ないから、交番へ相談に行ってみたら」と、自首（？）をすすめました。その後もこのWYさんは、たまにガラス戸の向こう側からドンドンとたくのです、

（報告）二 その親は、やはり長らく、映画を見ていません。映画にひざガクガク症となり、数分間も席を立てない体験をして以来、映画館へはほとんど行つていません。

（報告）三 五月某日。夜の警備員室に、「私を殺してください」という二十代の女性が現れましたよ。WY（ダブル・ワイ。暗号名か）と名のるのですが、その場では、「それは出来ないから、交番へ相談に行ってみたら」と、自首（？）をすすめました。その後もこのWYさんは、たまにガラス戸の向こう側からドンドンとたくのです、

（報告）四 一方で、Y市の旧市街に、青少年施設でのコーディネーターの仕事も、ダブルワークとして継続しています。こちらは、「どうしようもない細民の子どもたちばかり」。その、生きたアニメモナイトぶりを採集しているかくまえに「ダンス・ワイズ・ウルブズ」を見て、感激のあまり、黒澤明が描き残した人間風景。昨日も一昨日も、ここでは、今春中學を卒業したばかりの子たちが、七週間の鑑別所づとめから出て来る仲間を迎えるために集まっています。

おつと、監督。もう次の巡回の時間になりました。それでは、今夜もまた、警備員室「異状あります」。

なぜか、今なお『ジャンゴ』なのだ

久保嘉之

この傾向は顕著であった。

黒いハットに同じく黒のインバネ

うな顔立ちと、モデル上がりだと

『続 荒野の用心棒』も、そんな一本である。中間だったか期末だったか、とにかく試験期間中だったと記憶している。クラブ活動も期間中は休みなため、試験が終わると直帰。私も帰宅するべく、映画館横の路地を抜けてバス停へ向かおうとしていた。その折、映画館の横の壁に貼られた、上映中の作品のポスターが眼に入ったのである。黒っぽいテンガロン・ハッ

トを被り、やや右を向いたフランコ・ネロの、ポスターの右半分を占める大写しに、左側にタイトル・ロゴ、だつたと思う。浅黒く日焼けした精悍な風貌に、少しグレーがかつたような薄いブルーの瞳。なぜかゾクッとした。「カッコいいなあ」。

〈続〉とあるからには、当然(正)もあるわけで、普段の私なら性格ヒ首』がそうだし、アニメはあまり好きではないのだが、通勤途中眼にしたポスターの素晴らしさにその場に釘付けとなり、早速次の休日に映画館へ足を運んだ『火垂るの墓』などは、その好例である。若い頃、特に学生時代は経済的にも時間的にも、映画雑誌を購入して情報を得る余裕などなかつたから、

序

私は何の予備知識も持たぬまま、ただポスターに惹かれてその映画を観ることがよくある。渡哲也に夢中になり、その後出演作品を追いかける契機となつた『無賴・黒ヒ首』がそうだし、アニメはあまり好きではないのだが、通勤途中眼にしたポスターの素晴らしさにその場に釘付けとなり、早速次の休日に映画館へ足を運んだ『火垂るの墓』などは、その好例である。若い頃、特に学生時代は経済的にも時間的にも、映画雑誌を購入して情報を得る余裕などなかつたから、

まず冒頭、主題歌が流れだすと、
壱 女の名は、マリア(ロレダナ・
ヌシアク)。往年の大女優ソフィア
ローレンを少しスリムにしたよ
果然、面白かった。痩れたね。

ス・コートを羽織りくすんだベ

ージュのマフラーを巻いた主人公『荒野の用心棒』で、クリント・イーストウッドのポンチョ姿を考案したカルロ・シーミが、衣装を担当)が、そぼ降る雨の中、ブーツを泥だらけにしながら泥濘ねがる泥濘ねがるに歩き、泥濘ねがる泥濘ねがる道を、一步一歩踏み締めるように、棺桶を引き摺つて登場する。棺桶

！これは意表外だった。中身は、棺桶を引き摺つて登場する。棺桶の内、道を、一步一歩踏み締めるように、男は数多あれど、心を通わせるべき相手がいない彼女の絶望的な孤独を、如実に示していた。マリアは、ジャンゴが示した逃げるか一緒に来るかという二者択一の内、より危険を伴つた方を選択し、彼と行動を共にすることを決意する。

二人は町を目指す。ジャンゴには、ある目的があつたのである。凍てつくような寒さの中、町はゴースト・タウンと化しつつあった。人づ子一人、猫の子一匹見当たらぬ。泥濘に沈みかけた町。唯一、人の屯する場所が、曖昧宿とでもいうのか、ホテルを兼ねたうらぶれたバーに、マスターのナタニエレ(アンヘル・アルバレス)と女給が五人。彼女たちは、場合と金額次第で春をも鬻ひきぞう

・ネロ)。彼は、蟻地獄のような流砂の上に架けられた吊り橋の袂で、三人のメキシコ系の男に鞭打たれる女を、目撃する。が、丘の上に突如現れた男たちに、三人は射殺されてしまう。首にそれぞれ赤いマフラーを巻いた白人の男たちは、しかし女を救出しようとしたのではなかつた。見せしめだとばかり、

今度は女を火炙りにしよう、準備を始め出したのだ。そこへジャンゴが割つて入る。問答も何もあらばこそ、男たちはジャンゴの眼にも止まらぬ早撃ちの、餌食と化す。

女

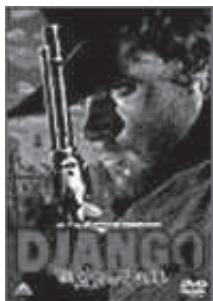
ヌシアク)。往年の大女優ソフィアローレンを少しスリムにしたよ

果然、面白かった。痩れたね。

な気配。

ジャンゴが店の中に持ち込んだ棺桶に、女たちは十字を切るやら

2014年9月1日



『続 荒野の用心棒』

驚くやら、続いて現れたマリアに、事情を知つてゐるナタニエレは迷惑顔。半ば強引に女給の一人の部屋を借り受けたジヤンゴは、マリアに休むように云い、自らは食事を頼む。そこへジヤクソン少佐の情報屋で使い走りのジョナサン神父（ジーノ・ベルニーチエ）が、所場代を取り立てに現れる。ジヤンゴは神父を挑発し、少佐自身が来るよう促す。

極端な人種差別主義者であるジヤクソン少佐（エドワード・アヤルド）は、神父の注進を受け、上納金を払えない貧しいメキシコ人を射殺して楽しむ「狩り」を打ち切り、五人の部下を引き連れてやつて来た。

だがまたもや部下たちはジヤンゴの早撃ちに斃れ伏す。銃口を突き付けられた少佐は、残りの部下の数を尋かれる。四十人だと答えると、

「全員連れて来い。相手になつてやるから」ジヤンゴは囁き、少佐

を解放する。いかに早撃ちの名手といえど、このふてぶてしい自信は、一体どこから湧いてくるのか。部屋に毛布を取りに来たジヤンゴに、マリアは思いを告げる。「嬉しかつたの。あなたが命懸けで私を助けてくれたのは、私を愛してくれたからではないのか、と思えて……」彼女は、南北戦争に於ける北軍の兵士とメキシコ女の間に、生まれた娘。その生い立ちと美貌ゆえに、メキシコ革命軍の男たちにも、ジヤクソン少佐一味の男たちにも、愛玩動物のように扱われ続けてきた。その中の誰一人、マリアを一個の人格として、一人の女として見てくれる者はなかった。そこに彼女の絶望があった。更に問題だったのは、二つのグループが敵対関係にあつたことだ。お互いが、マリアを自分たちの所有物として、奪い合つたのである。だから彼女は、どちらの元からも逃げ出した。追つ手の男たちは、しかしながら愛玩動物が、自らの「意志」を持つことを赦さなかつた。故に見せしめにしようとしたのである。

「だつたら夢を叶えてやろう。たとえ一晩でもな」ジヤンゴは答えて、マリアに手を伸ばした。

翌朝、少佐が四十人の部下を引き連れて、やつて來た。銘々に朱のような赤いマフラーや、眼の部分だけを開けた頭巾を被つた、不思議な男たち。いかにも多勢に無勢、形勢は不利以外の何物でもない。この局面を、ジヤンゴはどう戦おうというのか。

距離を見計らつて、ジヤンゴが棺桶の中から取り出したのは、驚くべしガトリング機関銃であった。ジヤンゴはその銃を抱えて撃ちまくり出す。拳銃百五十挺分の威力、吠え続ける機関銃の前に、男たちはなす術もなく、頭巾やマフラー中に斃れ転がっていく（因みに、この機関銃はスタントマン出身のリゲス将軍（ホセ・ボダロ）が、一党と共に町へ戻ってきた。偵察に來ていたジョナサン神父は、気付くのが遅れ、慌てて逃げ出そうとするが時遅し、あつさり捕えられてしまう。将軍は、

「情報屋だけあつて、いい耳をしているな」と皮肉な口調で薄く嗤い、ナイフで神父の右耳を切り落とし、それを神父の口の中に押し込んでしまう。このシーンはかなりリアルである。それだけに酷過ぎる残虐過ぎると非難囂々、かなり悪評を蒙つたという。しかしであります、この後すぐ、よろめきながら歩き出す神父を背後から将軍が射殺するのですが、それを正面から撮つているため、のけぞり倒れる神父の右耳がしつかり付いているのが、はつきりと判るのです。

墓場で死体を埋める穴掘りに余念がないナタニエレの近く、とある墓標の前で佇むジヤンゴ。「知り合いか」

メキシコ革命軍のウーニョ・ロドリゲス将軍（ホセ・ボダロ）が、リジナルのマシンガンだそうだ）。累々と横たわる死体。だが、ジヤンゴはジヤクソン少佐には止めを刺すことなく、再び逃がした。墓場で死体を埋める穴掘りに余念がないナタニエレの近く、とある墓標の前で佇むジヤンゴ。「知り合いか」

「婚約者だった人が眠つてゐる。ジヤクソン少佐に殺された。俺はその時、傍にいてやれなかつた」だからこそ、マリアがジヤクソン一味に襲われた時、ジヤンゴは黙つて見過ごすことが出来なかつたのである。

に後味の悪さを消すため、本当に耳を切り取つたのではないんだよと観客に知らしめるための、セルジオ・コルブッチ監督の苦肉の策、いやむしろ諧謔ではなかつたろうか――

ジャンゴとロドリゲス将軍とは、何と旧知の間柄であつた。再会を喜んだのも束の間、ジャンゴはある計画を将軍に提案する。メキシコ領にあるカリヴァ砦には、金が保管してある。更にはジャクソン少佐が、自ら貯めこんだ金をそこへ預けに行くという。それらを強奪してしまおう、というのである。婚約者の仇を討つ意味合いも当然あつたろうが、ジャンゴの本当の狙いはそこにあつたのである。だからこそ、機会はあつても少佐を殺さずに、生かしておいたのだ。

ロドリゲス将軍にとっても、革命を成就させるための武器を購入する資金を手に入れることは、焦眉の急であつた。だが砦は政府軍の精銳が、がつちりと護りを固めている。一体どうやつて……

毎週土曜日、ナタニエレは女たちを馬車に乗せて、砦へ慰問を兼ねた商売に行くのだといふ。その機を利用しようというのである。幌を掛けた馬車に乗つてゐるのは、

女ならぬ荒くれ男たちと、ガトリング機関銃。まんまと砦に入り込んだジヤンゴたちは、飛び交う銃弾、飛び散る血潮、漂いなびく硝煙の中、金の強奪に成功する。すぐさま逃亡を計るも、ジャクソン少佐を先頭に、政府軍が追撃する。だが馬車が国境を越えたとき、政府軍は後を追うのを諦める。流石に隣国への進入は、躊躇われたのである。少佐は地囂駄を踏むが、一人ではどうしようもなかつた。

凱旋を祝う間も惜しんで、ジャンゴは分け前を要求する。だが将军は「革命が成功したら、幾らでも払つてやる」と取り合おうとはしない。そればかりか、

「どうやらマリアは、お前に惚れてるようだ。抱いてやれ」と、ジヤンゴを懷柔する作戦に出る。マリアは一瞬喜色を泛べるが、それを断つたジヤンゴが、メキシコ女を連れて二階へ上がるのを、訝しげな眼差しで見送る。その表情のアップで、彼女がジヤンゴの思惑を察知したのを知らしめる手際は、なかなか堂に入つてゐる。メキシコ女に窓際でゆつくり一枚ずつ服を脱がせ、見張りの男たちの眼を釘付けておいて、ジヤンゴは空の棺桶を運び込んで金を詰め始

める。首尾よく金で一杯になつた棺桶を馬車に積み込んだ時、彼のいたばかりマリアと袂を分かとうとするが、折悪しく手綱に引つ掛けられたライフルが暴発。驚いた馬は棹立ちになつた所為で、棺桶が流砂に滑り落ちてしまう。慌てて止めようとしたジヤンゴが、今度は流砂に嵌まり込んでしまう。吊り橋を走り、中央で腹這いになつて手を差出し、懸命に彼を助けようとするマリア。虚空に響きわたる銃声。追いかけてきたロドリゲス将軍一味の者が放つた銃弾に、マリアは傷付いてしまう。

一方ジヤンゴは、傷付いた両腕にマリアを抱いて、町へ、曖昧宿へ戻つて来た。ナタニエレにマリアの傷の手当てを頼むと、彼女に向かい、「俺はお前と一緒に生きていくことを、決心した。だがその前に、どうしてもやつておかなければならぬことがある」

つまりは、こういうことだろう。金が底無しの流砂に呑み込まれたことを知ると、「どだい金など頼りうとしたのが間違ひだつたのだ。革命は自分たちの手で、成し遂げられる」としたのが間違ひだつたのだ。

ジヤンゴがマリアを助けたのは行き挂り、謂わば単なる気紛れに過ぎない。だが彼女は必死に、彼を救おうとした。本当の愛を知つたジヤンゴは、マリアの気持ちに殉じようと思う。しかしジャクソン少佐の手に掛かつて果てた許婚の復讐が、まだ終わってはいない。元々その為に仕掛けた筈であつたのに、欲に目が眩んでしまつたが

「國に帰るぞ！」 関の声を上げ、意氣揚々と立ち去つていく。

しかしながら、その気勢も空しく、国境を越えたところで、待ち伏せしていたジャクソン少佐と政府軍の手に掛けられ、あえなく殲滅されてしまうのである。

「國に帰るぞ！」 関の声を上げ、意氣揚々と立ち去つていく。

しかし、ナタニエレは、馬の蹄によつて、骨が粉々に碎かれてしまう。それを見届けた将军は、

故に、思わぬ誤算を生じてしまつた。マリアの無償の愛には応えた。だが嘗て愛した婚約者の無念を晴らさないうちは、自分自身を赦せなくて、マリアを本当に愛することは出来ない。だからこそ、どうしてもジャクソン少佐と、最後の決着を付けなければならないのだ。

「無理よ、その手では……」マリアの懇願を背に、墓地で待つていると、伝えてくれるナタニエレに、ジャクソン少佐宛の伝言を頼むジャング。マリアの指摘を俟つまでもなく、碎かれた両の掌では、銃など撃つことも出来まいに、いつたいジャングはどう闘おうというのか。

——婚約者だった人の墓の陰で待つジャング。やがてジャクソン一味が、姿を現した……

式

なぜ半世紀近くも前に制作された作品の梗概を、今更のように長々と書き記したのか。それはこの映画が、今に至るも尚根強い影響力を持ち続けているからである。その理由を解き明かしたくて、何分古い映画でもあり、その為には元となる映画の内容がどんなも

のであつたか、知つておいて貰う方がいいだろう、そう判断したからである。

セルジオ・コルブッヂ監督による『続 荒野の用心棒』は、二年前に制作されたセルジオ・レオーネ監督の『荒野の用心棒』同様、大ヒットを記録した。しかし、『正』と『続』ではあってもこの二作品に因果関係は全くなく、そればかりかヒットした要因にも大きな違いがあるのである。

『荒野の用心棒』は、私等と同世代の方なら殆ど存知だと思うが、黒澤明監督の傑作『用心棒』の、良く言えば換骨奪胎、有り体に言えば丸写しなのである。細部も実にそつくりだ。それもその筈で、ドナルド・リチーが誌した『黒澤明の映画』の中のほかの監督によつて映画化された黒澤明の脚本一覧に、『七人の侍』をジョン・スター・ジエス監督が『荒野の七人』としてリメイクしたのと同様に、『荒野の用心棒』も『用心棒』の翻案として掲載されている。映画化権を、売り渡したのである。元々『用心棒』は、ハード・ボイルドの祖といわれるダシール・ハメットの『血の収穫』を下敷きとしているのだが、封切り当初か

らアメリカ西部劇との類似を、指摘されていた。

黒澤自身こう述べている――

「いい西部劇は誰にでも好かれ。人間は弱いものだから、いい人間や強い英雄を見たがるわけだ。西部劇はいくつもいくつも何回も何回も作られて来たから、その間に自然に文法みたいな定石が出来た。ぼくはその西部劇の文法に学ぶところがあつたんです」『黒澤明の映画』ドナルド・リチー著・三木宮彦訳)。中でも黒澤監督は、

原題は『ジャンゴ』という。フランコ・ネロが演じた主人公の名、つまり個人名である。命名したのはセルジオ・コルブッヂ監督自身で、監督が愛してやまない、二〇年代から五〇年代にかけて欧州で活躍したジプシー・ギタリストであるジャンゴ・ラインハルトから、頂戴したものだとうとしたのだと、いわれている。

ここがポイントで、それまでの西部劇では描かれたことのない、自己の欲望にのみ忠実な一個人の人格を有する(ジャンゴ)という名前が、半世紀を経た現在クエンティン・タランティーノ監督の手で映画化された主人公にまで、継承されているのである。

それではまず、イーストウッドとネロが演じたそれぞれの主人公を、比較してみよう。イーストウッドは劇中名前を名乗らなかつたので、後になつて(名無しの男)と称される。これは、



『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』

『用心棒』で主人公の三船敏郎が名前を訊かれ、本名を明かしたくなかったから、咄嗟に眼の前に広がる桑の畑から「くわばたけ……」と答える。もうすぐ四十に手が届く」と付け加えたのと、趣を同じくしている。因みに、これは二作目に当たる『椿三十郎』でも、満開の椿の花を前に、「椿、三十郎……もうそろそろ四十郎ですが」という台詞で、踏襲されている。

〈名無しの男〉は、「義」と「情」で、行動を起こす人物である。旅兄弟とバクスター一家という相争の途中で立ち寄った町が、ロホス。う二大勢力のため、すっかり寂れ果ててしまっている。人々は、日々逃げたくなっただけだ」というのがある。これこそまさしく、イーストウッドが二つの勢力をぶつ壊し、農民の母子とその亭主を助けたときの、心情そのものではなかつたろうか。

対するに、〈ジャンゴ〉の行動を律するのは、徹底した「我欲」である。根底にはジヤクソン少佐への恨みはあるものの、つまり火炙りにされそうになつたマリアを助けたのは、相手がジャクソン少佐の部下だったからであるが、直接少佐に復讐しようとはせず、彼の金

から四十六年を経た二〇〇七年、我が日本で三池崇史監督による『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』が、制作された。この映画については後述するが、その中で伊藤英明が演じた主人公が〈名無しの男〉と実によく似ており、彼の台詞に、「行き掛りが人生だ。俺はそれから逃げたくないだけだ」というのがある。これこそまさしく、イーストウッドが二つの勢力をぶつ壊し、ふたつのグループに、主人公が第三者的に関与するという類似点があるふたつのグループに、主人公が『ジャンゴ』に、『荒野の用心棒』の続編を匂わせるタイトルを付ける。なかつたら、日本でこれほどまでにヒットしただろうかと、思えるのだ。苦肉の策ではあつたろうが、狙いは正確ではなかつたか、といふ気がする。

クリント・イーストウッドもフランス・ネロも、當時まだ無名に近かつた二人が、共に〈用心棒〉

『用心棒』で主人公の三船敏郎が名前を訊かれ、本名を明かしたくなかったから、咄嗟に眼の前に広がる桑の畑から「くわばたけ……」と答える。もうすぐ四十に手が届く」と付け加えたのと、趣を同じくしている。因みに、これは二作目に当たる『椿三十郎』でも、満開の椿の花を前に、「椿、三十郎……もうそろそろそろ四十郎ですが」という台詞で、踏襲されている。

少し先走るが、『荒野の用心棒』から四十六年を経た二〇〇七年、我が日本で三池崇史監督による『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』が、制作された。この映画については後述するが、その中で伊藤英明が演じた主人公が〈名無しの男〉と実によく似ており、彼の台詞に、「行き掛けが人生だ。俺はそれから逃げたくないだけだ」というのがある。だからこそ『続 荒野の用心棒』は、マカロニ・ウエスタンが、剥き出しの自我を有し、愛ゆき、剥き出しの自我を取り戻した男である。だからこそ『続 荒野の用心棒』は、マカロニ・ウエスタンには極めて珍しい純愛物語である

を強奪することで、遠回しに彼を苦しめ、何より自分が儲けようとしたのである。すべてが計画通りに運べば、ジャンゴは金を持って逃げ果せた筈である。やや極端な言い方にならうかとは思うが、〈名無しの男〉は謂わばスパー・ヒーローだが、ジャンゴは剥き出しの自我を有し、愛ゆき、剥き出しの自我を取り戻した男である。だからこそ『続 荒野の用心棒』は、マカロニ・ウエスタンには極めて珍しい純愛物語である

。第三者的に関与するという類似点しか、ないのである。しかしもしも『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』は、その殆ど全編が、西部劇特にマカロニ・ウエスタンのパロディーで、構成されている。監督でNAKA雅MURAと共同で脚本を執筆した三池崇史は、一体何歳になるのだろう。私と同じ団塊の世代で、若い頃クリント・イーストウッドやフランコ・ネロ、ジュリアーノ・ジエンマ等に夢中になつた人たちより、はるかに若い年代に思えるのだが。まさか本邦にウエスタン・ブームを再来させようと、目論んだ訳ではあるま

先述したように、『荒野の用心棒』と『続 荒野の用心棒』には、何の因果関係もない。ただ抗争するふたつのグループに、主人公が『ジャンゴ』に、『荒野の用心棒』の続編を匂わせるタイトルを付けなかつたら、日本でこれほどまでにヒットしただろうかと、思えるのだ。苦肉の策ではあつたろうが、狙いは正確ではなかつたか、といふ気がする。

参

まさか日本で西部劇が制作されることは、思つてもみなかつた。

『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』は、その殆ど全編が、西部劇特にマカロニ・ウエスタンのパロディーで、構成されている。監督でNAKA雅MURAと共同で脚本を執筆した三池崇史は、一体何歳になるのだろう。私と同じ団塊の世代で、若い頃クリント・イーストウッドやフランコ・ネロ、ジュリアーノ・ジエンマ等に夢中になつた人たちより、はるかに若い年代に思えるのだが。まさか本邦にウエスタン・ブームを再来させようと、目論んだ訳ではあるま

2014年9月1日

い。私にはこの作品が、マカロニ・ウエスタンをよく愛した人たちが、それら諸作品に捧げたオマージュのような気がしてならないのだ。だからこそ、大の日本通でマカロニ・ウエスタンが好きだと公言して憚らない、クエンティン・タランティーノ監督を、役者として招聘したのではなかろうか。

物語の設定は、『荒野の用心棒』と同じである。金が埋蔵されているという寒村に、赤い衣装を纏つた（これは『続 荒野の用心棒』を彷彿させる）平家と、白の源氏、二つのグループが入り込み対立している。平家の首領は佐藤浩市（清盛）で、副首領は堺雅人（重盛）、源氏の大将は伊勢谷友介（義経）、その下に石橋貴明（弁慶）等がいた。その他村の駐在（保安官）で、形勢の有利な方に加担しようとする香川照之、居酒屋の亭主にあたる役を桃井かおり、その息子で農業を営む小栗旬と木村佳乃、二人の間には平八という男の子がいた。——実は、最後まで明らかにされないが、桃井かおりは（血まみれ弁天）と呼ばれる凄腕のガンマンで、確かに村の金を護つていたのである。彼女に銃を教えた師が、タランティーノ。小栗旬は、

二人の間に出来た子供であった。イーストウッドならぬ伊藤英明が村へ来たとき、小栗は既に佐藤浩市によつて殺され、息子の平八はそのショックで口が利けなくなったり、木村佳乃は夫の仇を討つため源氏の元へ、身を寄せていた。伊藤は、平家と源氏の対立をより深めるべく、双方への挑発を始め出す。

抗争の途中、石橋が武器の調達に出かけ、戻つて来たときには、『続 荒野の用心棒』と同じくガトリング機関銃を収めた棺桶を、馬車で曳いていた。また伊勢谷が馬の鞍に取り付けた布包みの紐をほどくと、ライフル銃がずりと並んでおり、その中の一挺を選んではるか遠くを逃げようとする佐藤を狙撃するシーンは、題名は失念したがリーバン・クリーフ主演の映画と同じものだと、記憶する。因みに、先述のイーストウッド、ネロ、ジエンマほぼ三人のローテーションで、マカロニ・ウエスタンは当初制作されていたのだが、遅れて参戦してきたのが、この引き目・鉤鼻が特徴のリーバン・クリーフであった。更に佐藤が撃たれて死んだと思いきや、鉄板の防弾チョッキを着こんでおり、むつ

くり起き上がつてきたのには笑つてしまつたが、このシーンは云うまでなく『荒野の用心棒』のパロディーである。

他にもいろんなパロディーが鏤（ちりば）められていたと思うし、私自身マカロニ・ウエスタンに精通しているればもっと楽しめたのだろうが、その点は残念だが、それでもかなり面白かった。

面白いといえば、登場人物の中でも特に注目に値するのが、狂言回し的役割を担つた保安官・香川照之の存在である。寄らば大樹の陰を求めて今日は平家、明日は源氏と右往左往する様が、それが真剣であればあるほど笑いを誘うし、最後には欲に目が眩んで金の争奪戦に絡んでくるのだが、その豹変ぶりが又なかなかであった。彼の演技の上手さと作品上の役割の位置付けがなかつたら、この映画はただ凄惨なだけで息がつけなかつたに違ひない。

殺し合いも最高潮に達した頃——木村佳乃が殺害される。父に撫で、漸く眼が見え口が利ける状態に戻つた平八の元を、伊藤は馬で去る。アラン・ラッドの『シェーン』である。

さて？ここで気が付いた。伊藤は（名無しの男）である。彼の周りに、恋愛感情を育むような女性が登場しないことでも、それは伊藤を見送る平八の画面下をテ

ロップが、流れる。

「数年後、平八少年はイタリアへ渡り、ジャンゴと呼ばれる漢となつた」この取つて付けたような構成も笑えたが、観方によつてはこの映画は『続 荒野の用心棒』の、序章といえるかもしだい。平八のような凄惨な経験を味あわされた少年が、人を信じない、人を頼らない、自己の欲望のみに忠実な大人になつても、何ら不思議はないのである。

そこに、『続 荒野の用心棒』で流れたルイス・エンリケス・バカラ作曲の主題歌が被さつてくるのだが、歌つているのは何と演歌の大御所・北島三郎なのだ。無論、日本語である。一部を紹介しておこう。

ジャンゴ、乾いた風に
ジャンゴ、命の音が静かな目
道

ジャンゴ、孤独の文字を
ジャンゴ、背負つた者は、迷
いもなく涙もなく、はぐれ月
夜に吠える
燃え上がる空の果てに聞こえ
る
心の歌に抱かれて眠れば
『ジャンゴ～さすらい』

作詞・MAKOTO、編
曲川村栄(二)

参考までに『続 荒野の用心棒』で歌われた元の曲の訳詞も、一部を掲載しておく。較べてみて下さい。

ジャンゴ、おまえが愛したのは一度だけ
ジャンゴ、それも忘れてしまつたか
生きることも愛することも、
たつた一度のことだから

一度だけ
ジャンゴ、おまえが愛したのは
ジヤンゴ、おまえはいつもひとりぼっち
愛はとつくに消え失せて、おまえは永遠にさすらい続ける

(原曲DJANGO、ルイス・エンリケス・バカラ
フ)

さて『ジャンゴ 繋がれざる者』
である。

タランティーノは脚本を書いた
だけでなく自ら監督までして、なぜこの映画を撮ろうと思つ立つた
のだろう。

マカロニ・ウエスタンをこよなく愛して已まない監督のことだか
く賞を、キング・シュルツ役を演じ

ら、夢中にさせてくれたそれら作

品群へのオマージュとして、あるいは総括・集大成の意味を込めて制作したのだろうか。

それとも、現在では殆ど制作されなくなつた西部劇全般の、とりわけマカロニ・ウエスタンの火を再燃させるべく、その口火を切る作品たらんと目論んだものであろうか。

何れにせよ、そのきつかけとなつたのは『スキヤキ・ウエスタン』だ。『スキヤキ・ウエスタン』への出演ではなかつたか、と私には思える。『ジャンゴ 繋がれざる者』のキヤツチ・コビーに、構想十年とあつた。すると

『スキヤキ』に出演したのが七年前だから、その時にはすでに構想の一部は、腹案としてあつたということになる。そういう偶然を、私は信じない。むしろ

マカロニ・ウエスタンのパロディーとして制作された『スキヤキ

』に出演したが為に、俺たつたら正統派のマカロニ・ウエスタンを撮る、と決意した。そう解釈した方が納得できるのではなかろうか。

たクリストフ・ヴァルツは助演男優賞を、見事射止めている。タラ

ンティーノにしてみれば(監督賞)こそ欲しかつたのかも知れないが、元々ライター上がりなだけに、これはこれで面白躍如だろう。

『続 荒野の用心棒』の時代設定が跋扈していた時代を背景としている。タランティーノ監督がいみじくも「タブーに挑戦した」と語るようになつたタブーというの

は二重の意味を持ち、まず劇中「ニガー」という差別用語で呼ばれる黒人が、現在アフリカ系アメリカ人と表現される人たちにとつて、どのように映りどのよう反応されるのかという点、次に嘗ては奴隸であつた黒人の賞金稼ぎが、

賞金首とはいえ白人を捕らえあるいは射殺するという、いわば白人の反感を買いかねない内容である

ということ。この禁忌を破るために考へ出された物語の構成上、この時代設定は不可分の要素であつた。

——転売されるため、手と足を鎖で繋がれ、馬に牽かれて移送される途中のジャンゴ(ジェイミー・フォックス)を救つたのは、狙

2014年9月1日

う賞金首の居所を知っているジャニングを道案内に立てようと計った、キング・シュルツ（クリストフ・ヴァルツ）だった。ドイツ人である彼は、表向きは旅回りの歯科医師だが、その実体は名うての賞金稼ぎだったのである。

当初、役目が終わるとお払い箱にする心算だったが、行を共にするうちジャンゴの才覚と銃の腕前には驚嘆し、相棒として賞金稼ぎの道に引き入れることにする。組んだ二人は最強だった。

やがて多額の賞金を稼ぐようになつたジャンゴは、愛し合うが故に一緒に逃げようとして捕えられ、引き裂かれて別々に売られ、離ればなれとなつてしまつた妻ブルーミヒルダ（ケリー・ワシントン）を買い戻せるのではないかと思いつめ、頬に逃亡者の印である（エ）という焼印の跡とドイツ語が話せる黒人女性という情報だけを頼りに、彼女を捜し始める。

ミシシッピーは、奴隸にとつて最も過酷な土地。中でもキヤンディ・ランドは、とりわけ悪名高き農園。何とブルームヒルダは、そこに売られていたのである。農園のカルビン・キャンディー（レオナルド・ディカプリオ）は残忍

にして悪逆非道、のみならず執事のステイブン（サミュエル・L・ジャクソン）は、黒人でありながら白人よりも悪知恵に長けた、狡猾極まる奴隸頭。この二人がいる限り正攻法では、とても妻を取り戻すべくもない。策を講じなくては……

そこでシュルツが思い付いた案は、奴隸同士を素手で殺し合わせる「奴隸デスマッチ」に入れ込んだりしている「マンデインゴ」に、彼が所有している「マンデインゴ」と呼ばれる格闘用の奴隸を買いたいといふ名目で近づき、併せてシュルツの母国語であるドイツ語を話すブルームヒルダも譲り受けたいと、申し出ようといふものであった。マンデインゴに大金を出すといえば、三百ドル程でしかない彼女など簡単に売却するであろう、と踏んだのである。伝を頼りにキヤンディーと会う段取りを付けた二人が案内されたクラブでは、まさに「奴隸デスマッチ」が行われている中最中であった。

さて、ここで対戦する奴隸の所有者役で、フランコ・ネロがゲスト出演している。私にとつては『ダイハード2』の将軍役以来であるから、とても懐かしかつた。そ

れにしても時の移ろいとはいえ、老けた。

「名前は？」とネロ。

「ジャニゴ」答えるフォックス。

「スペルは？」

「D - J - A - N - G - O。Dは

発音しない」

「知つてる」——そうだよな。初代ジャンゴを演じた人だもの。充

分過ぎるほど知つてゐるよな。小憎

まつた。

——商談をまとめる為に農園に

招かれたシュルツとジャンゴは、

入口に設けられた見張り小屋付近

で、もう闇えないと逃走を図つた

マンデインゴを、役に立たなくな

つたばかりか損をさせたと激怒し

たキヤンディーが、部下に命じて

躊躇猛な犬たちに噛み殺させる現場

を、目撃させられる。お尋ね者を

撃ち殺して賞金を稼ぐことを生業

としているくせに、この残酷極ま

る殺戮のやり方は、シュルツにと

つてかなり衝撃であった。そして

このショックが思いがけない結果

を、招くこととなる。

うまく運ぶかと思われたブルー

ムヒルダを手に入れる計画を阻ん

だのは、何とステイブンであつた。長年奴隸の行動に目を光らせ、

監督し続けてきたこの老執事は、彼女とジャンゴが夫婦であることを見破つたのである。はなからマンデインゴなどに金を払う心算など毛頭なく、彼女こそが目当てに違いないことを、キヤンディーに耳打ちする。一瞬騙されていると知つて憤怒に身を灼くものの、キヤンディーはやはりしたたかだつた。

結局、一万二千ドルという大金を払つて、ブルームヒルダをシュルツが買い取ることで双方合意に達するのだが、売買契約書と領収書を彼が受け取つた後、事件は起つた。

ミシシッピーでは売買終了後、契約者同士が握手をしないと商談は成立しないとキヤンディーが云い出し、シュルツに握手を強要したのである。ここで素直に応じていれば、何ら問題は生じなかつた。だが……シュルツの脳裡に、犬に噛み殺されるマンデインゴの姿が蘇り、同時に残虐非道で唾棄すべきこの男に、ここまで虚偽にされなければならないのかといふ曠恚に血が滾り、彼は隠し持つていたデリンジャーで、思わずキヤンディーを射殺してしまふのである。



『ジャンゴ 繋がれざる者』

えっ？ 嘘、ディカプリオもう死んじゃうの。まず思ったのが、それだつた。ディカプリオ、初の悪役に挑戦と謳つていたので、ラストでフォックスとの対決シーンでも用意されているかと思つていたのだが——実はこの意外性を狙つた手法は、タランティーノ監督の得意とするところで、傑作『バルプ・フィクション』でも、物語の中盤にトイレから出て来たジョン・トラボルタが、ブルース・ウイリスにあつさりと撃ち殺されてしまうというシーンがあつた。印象は強烈で、ラスト・シーンは忘れてしまつたが、このシーンだけは未だに覚えてる。ディカブ

リオにとつても、忘れ去られるラストまで居残るより、印象深く身を引くことが出来て、幸いだつたのではないかろうか。

「すまんジャンゴ、どうしても我慢できなくて」そのシュルツも、キヤンディーの配下に撃たれて、死ぬ。その後壮絶な銃撃戦になるのだが、愛する妻を人質に取られたジャンゴは、已む無く投降する。ジャンゴは、殺されなかつた。その代り、鉱山の採掘会社に売却され、朝から晩まで陽の目を見ることなく、死ぬまで働き続ける運命を担わされる。

移送の途次、見張りの男たちに、言葉巧みに賞金を稼ぐ話を持ち出したジャンゴは、男たちが気を許して彼に銃を渡した瞬間、全員を射殺してしまう。その中の一人、撃たれると同時に身に着けたダイナマイドが爆発して吹き飛んでしまう男を、随分と貫録のよくなつたタランティーノ監督が演じていたのは、ご愛嬌。

かくて、再び繋がれざる者となつたジャンゴは、かけがえのないブルームヒルダを救出すべく、執事ステイブンを始め農園の輩と決着を付けるべく、馬を飛ばして舞い戻つていくのであつた——

『続 荒野の用心棒』と同じく、オーブニングでバカラフによるテーマ曲が被さつてくるのだが、すでに紹介した二作と、映画の内容に合わせてではあるが、これも詞が違つていて。日本語以外はチンブンカンパンな私には、どれも同じ歌詞に聞こえるのだが、二作を披露した手前、これも一部を書き記しておく。

ジャンゴ ずつと孤独だった
か ジャンゴ 二度と人を愛さぬのか
だが愛は生き続ける、人生も続していく、悔やんだまま生きていけない
ジャンゴ 明日に向かわねば
い ジャンゴ 愛する人は今や遠
愛した女は奪われてしまつた、もう二度と会えない

（町山智浩翻訳）
マカロニ・ウェスタンに通曉しているタランティーノ監督なればこそだろう。作品群の中で流れた音楽にも造詣が深く、映画音楽の巨匠であり何曲もマカロニ・ウェ

伍

『続 繁がれざる者』でも『荒野の用心棒』と同じく、オーブニングでバカラフによるテーマ曲が被さつてくるのだが、すでに紹介した二作と、映画の内容に合わせてではあるが、これも詞が違つていて。日本語以外はチンブンカンパンな私には、どれも同じ歌詞に聞こえるのだが、二作を披露した手前、これも一部を書き記しておく。

——当時マカロニ・ウェスタンは、輝いていた。現在その光芒は、多少の衰えをみせたとはいえ、なお輝き続けている。しかしながら、あいつたブームが到来することは、二度とないだろう。だからこそタランティーノ監督が見せてくれた世界は、懐かしいだけでなく、嬉しい限りなのだ。ジャンゴは、生き続ける。たとえ再びブームになることはなくとも、思い出した頃にひよつこりと顔を出す。それでいい。そうあつて欲しい。

とまれ、マカロニ・ウェスタンが生み出した不特定多数の（ジャンゴ）たちが、スクリーン狭しと暴れ回つたという事象は、西部劇のみならず世界の映画史上、類を見ない快挙ではなかろうか。



私の好きな西部劇

岩館範子

西部劇と言えばフツー頭に浮かぶのは、ジョン・ウェイン、クリント・イーストウッド、ジュリアーノ・ジエンマかな。作品で言う『荒野の七人』? どれもあたしにはしつくりこない。

まずガンマンが好き。人はたくさん死ぬし、みんないつもウイスキーを飲んでる。それでも保安官でも無法者でもいいからかっこいい男がみられる。砂ぼこりで汚れて、汗くさそうで、ひげが似合つていればもつといい。好きな俳優

がでていると、はまつてしまう。

●クイック&デッド（1995、サム・ライミ）殺された父親の復讐のため、早撃ちトーナメントに挑む女性ガンマン、エレン（シャロン・ストーン）の姿を描いている。リデプションという町で、悪名高い市長でトーナメント主催者のヘロッド（ジーン・ハックマン）に銃の腕を認められ、女性初の参加が認められる。本当の目的はヘロッドへの復讐。

女ガンマンなんて居ない、と思つたらいたらしい。セクシーで売つてているストーンは、凄腕のガンマンには見えなかつた。トーナメントに参加するキッドという役で、ビーレオナルド・ディカプリオが出演している。見た目が幼すぎて、ビール飲むのもエレンと一夜共に過したと言われても説得力がない。元ガンマンで牧師の役で、ラッセル・クロウが出演している。もう銃は持たないと言つてたけど、トーナメントに強制的に参加させられ、撃ち合つけど生き残る。クロウがかっこいいと思つた作品。監督がサム・ライミだと思い出すのは、ヘロッドが撃たれた時、体に大きな風穴が開くところ。

●ダンス・ワイズ・ウルブズ（1

990、ケビン・コスナー）1863年南北戦争で負傷した北軍中尉ジョン・ダンバー（コスナー）は片足を切断されると思い込み、敵軍の前に単身つっこんで行く。英雄となり、足の傷が生還する。英雄となり、足の傷もよくなり勤務地を選べることに。開拓のフロンティアを見たいからダコタ最西部の砦へ。

任務で行かされたさらに先の砦についてみると誰もいない。ひと月くらいすると馬泥棒のインディアンが現れる。砦に現れた狼を友だちと見なし、近づこうとしたり、インディアンたちと仲良くなつていくのがほほえましい。白人でインディアンとして育つた女性を好きになり、一緒に生きようとする。それをインディアン一族は受け入れてくれる。一族と行動を共にするが、白人はそれを許さない。いつまでも追つてくる。そのままだんどん殺され、誰もいなくなつてしまふのは? という終わり方。

ハッピーエンドじやない所が、本当はこうだつたのではと思わせる。これは西部劇じやないという人もいるが、ちゃんと西部劇だと思う。シェーン（1953、ジョージ・シティーヴンス）西部では土地をめぐつて開拓農民と牧畜業者と



『シェーン』

の対立が絶えなかつた。流れものシェーン（アラン・ラッド）は北へ行く途中ジョー一家に立ち寄つて世話をくる。酒場で敵対するライカー一味にからまれる。その時はだまつて引きさがるが次はだまつてなかつた。ライカーはシャイアンの殺し屋ウイルソン（ジャック・パランス）を呼び寄せる。シェーンは一人で立ち向かう。シェーン役のラッドは、この作品で売れたが印象が強すぎて他の主演した作品は記憶に残らない。他の人ならあまり人気はでなかつたかもしれない。西部劇にはいろいろな美男子?だから、おかげで多くの女性たちが映画館に行き、大ヒットした。

世話になつた一家の手伝いをするだけでなく、ライカーも殺し屋も倒してくれる。早撃ちで有名な殺し屋に勝てるんだから、シェーンは有名人ではないのか?あと気になるのは肉体労働はしんどそうで、軟弱に見える。でもあの顔で夕飯は最高だったよ!と言われたら好きになつてしまふかも。ラスト、シェーンは怪我をしている。映らないがジョーイが言う。去り行く先には墓碑がいっぱい見えると言うがよくわからない。そうだとして、ガンマンの時代は終わり、死ぬのではと思わせる。お気に入りは、殺し屋に撃たれてしまう元南軍兵士の農民トーレー(エリシヤ・クック・ジュニア)。地味だけなぜか気になる。

●ワイルドバンチ(1969、サム・ペキンパー)

1913年のメキシコ。バイク(ウイリアム・ホールデン)をリーダーとする強盗団は、ソーントン(ロバート・ライアン)に追われながら、メキシコのマパチ将軍の依頼で米軍の銃器を強奪する。引き渡しの際、難くせをつけられ一味のひとりエンジエルを人質にとられる。いたん引きさがり準備をしてマパンチ軍に壮絶な殴りこみをかける。

シネマ 気球

世話になつた一家の手伝いをするだけでなく、ライカーも殺し屋も倒してくれる。早撃ちで有名な殺し屋に勝てるんだから、シェーンは有名人ではないのか?あと気になるのは肉体労働はしんどそうで、軟弱に見える。でもあの顔で夕飯は最高だったよ!と言われたら好きになつてしまふかも。ラスト、シェーンは怪我をしている。

●ウェスタン(1968、セルジオ・レオーネ)

ニューオリンズから西部へと嫁いできた元高級娼婦のジル(クラウディア・カルディナーレ)という女性を主人公に、鉄道会社に雇われたガンマン、強盗団のボス、混血の拳銃使い、重い病に身体を冒された資本家など

何となく見ないでおいた。初めて見たのはつい何年か前。彼独特のスローモーション多用のすさまじい殺りくの描写が受け入れられない。最初の鉄道会社襲撃もかなりむごい。そう思つてしまつたから、ラストは美しいとは思えない。人馬ののつた鉄橋の爆破は、見たことがない。この時代にそれをやつたペキンパーはすごい。俳優たちはいいけど、格好いいと思えないうちに終わってしまう。男たちは、死に場所を探してると言わればそうかもしれないが、好きなだけか気になる。

●ビリー・ザ・キッド(21歳の生)

ガンマンが機関車の到着を待つ駅舎のシーンから始まる。隣に立つ塔からは「キーコ、キーコ」と耳鸣り的な音が聞こえてくる。ガンマンの顔をハエがはう。ガンマンの頭に水滴が落ちてくる。そして汽笛が聞こえ機関車が到着する。降りたったハーモニカ(ブロンソン)と3人のガンマンが向き合う。一瞬のうちに全員倒れる。ハーモニカは撃たれたが立ち上がる。書くのは難しいけど、この最初の部分だけでもいい。このあとフランク(フォンダ)が登場。子供までも撃ち殺してしまう冷酷なガンマン。アメリカではフォンダが悪役といふのが思えた作品。ジルが結婚した男と家族は全員殺されてしまうが、ハーモニカとシャイアン(ロバーズ)が助けて住むはずだった家に落ちつかせてくれる。そして去つて行く。タイトルからガチガチの西部劇かと言うと、そうではない。女が主役だし、コメディ要素もある。アクション映画やコメディもいいけど、クリストファー・コバーンもいいけど、クリストファー・コバーンがかつこいい。彼を好きなんだけかもしれない。音楽を担当しているボブ・ディランがビリーと行動を共にするエーリアス役で出演している。初めて観た時は、???

天涯(1973、サム・ペキンパー)友人の保安官パット・ギャレット(ジエームズ・コバーン)の警告を無視して町にとどまつたビリー(クリス・クリストファーソン)は撃ち合いの末、逮捕される。だがビリーはスキをついて脱獄し、逃亡する。ギャレットは後を追う。2人は親友なのに敵同士になつてしまふ。もうガンマンの時代は終り、ギャレットは保安官への道を選ぶ。みんなは裏切つたと言つては難しいけど、この最初の部分だけでもいい。このあとフランク(フォンダ)が登場。子供までも撃ち殺してしまう冷酷なガンマン。アメリカではフォンダが悪役といふのが思えた作品。ジルが結婚した男と家族は全員殺されてしまうが、ハーモニカとシャイアン(ロバーズ)が助けて住むはずだった家に落ちつかせてくれる。そして去つて行く。タイトルからガチガチの西部劇かと言うと、そうではない。女が主役だし、コメディ要素もある。アクション映画やコメディもいいけど、クリストファー・コバーンがかつこいい。彼を好きなんだけかもしれない。音楽を担当しているボブ・ディランがビリーと行動を共にするエーリアス役で出演している。初めて観た時は、???

と思つたけど、だんだん見慣れてきた。ゆるーいキャラは合つていなかったけど、だんだん見慣れてきた。いつもながらペキンパーは会

2014年9月1日

社ともめていたし、完成版は納得いくものではなかつた。当時の社長は作品を台なしにする人だつたからだ。本人の好きなように編集させてあげたかつたなあ。

●殺しが静かにやつてくる（1968、セルジオ・コルブッヂ）1
898年、声を失つた殺し屋サイレンス（ジャンニルイ・トランティニヤン）は夫を殺された女性ボーリンの依頼で悪徳判事ポリカットに支配されるユタ州スノーヒルを訪れる。ターゲットは残忍な賞金稼ぎロコ（クラウス・キンスキード）。2人の対決が近づく中、サイレンスの凄惨な過去、ポリカットとの因縁が明らかになつていく。西部劇なのに全編雪景色。しゃべらない主人公、黒人のヒロイン、サイレンスが使う銃は木のケースに入つてる。異例づくめ。

サイレンスはしやべらないから、よけいロコのキンスキードが強烈に思えてくる。彼の没後21年後にキンスキードの長女が「5歳頃から19歳まで、父親に度々犯されていた」と告白。役名のロコは訛せば狂人という意味。本当に狂つてたのかと思うとコワイ。ラストが本当に衝撃！トランティニヤンの発案らしいがサイレンスもヒロインも

死んでしまう。でもたまに思い出して観たくなる。

●天国の門（1981、マイケル・チミノ）監督の完全主義で予算からだ。本人の好きなように編集させてあげたかつたなあ。

●殺しが静かにやつてくる（1968、セルジオ・コルブッヂ）1
898年、声を失つた殺し屋サイレンス（ジャンニルイ・トランティニヤン）は夫を殺された女性ボーリンの依頼で悪徳判事ポリカットに支配されるユタ州スノーヒルを訪れる。ターゲットは残忍な賞金稼ぎロコ（クラウス・キンスキード）。2人の対決が近づく中、サイレンスの凄惨な過去、ポリカットとの因縁が明らかになつていく。西部劇なのに全編雪景色。しゃべらない主人公、黒人のヒロイン、サイレンスが使う銃は木のケースに入つてる。異例づくめ。

サイレンスはしやべらないから、よけいロコのキンスキードが強烈に思えてくる。彼の没後21年後にキンスキードの長女が「5歳頃から19歳まで、父親に度々犯されていた」と告白。役名のロコは訛せば狂人という意味。本当に狂つてたのかと思うとコワイ。ラストが本当に衝撃！トランティニヤンの発案らしいがサイレンスもヒロインも

死んでしまう。でもたまに思い出して観たくなる。

●天国の門（1981、マイケル・チミノ）監督の完全主義で予算からだ。本人の好きなように編集させてあげたかつたなあ。

●殺しが静かにやつてくる（1968、セルジオ・コルブッヂ）1
898年、声を失つた殺し屋サイレンス（ジャンニルイ・トランティニヤン）は夫を殺された女性ボーリンの依頼で悪徳判事ポリカットに支配されるユタ州スノーヒルを訪れる。ターゲットは残忍な賞金稼ぎロコ（クラウス・キンスキード）。2人の対決が近づく中、サイレンスの凄惨な過去、ポリカットとの因縁が明らかになつていく。西部劇なのに全編雪景色。しゃべらない主人公、黒人のヒロイン、サイレンスが使う銃は木のケースに入つてる。異例づくめ。

サイレンスはしやべらないから、よけいロコのキンスキードが強烈に思えてくる。彼の没後21年後にキンスキードの長女が「5歳頃から19歳まで、父親に度々犯されていた」と告白。役名のロコは訛せば狂人という意味。本当に狂つてたのかと思うとコワイ。ラストが本当に衝撃！トランティニヤンの発案らしいがサイレンスもヒロインも

死んでしまう。でもたまに思い出して観たくなる。

●天国の門（1981、マイケル・チミノ）監督の完全主義で予算からだ。本人の好きなように編集させてあげたかつたなあ。

●誇り高き男（1956、ロバート・P・ウェッブ）キヤス（ロバート・ライアン）は保安官。勝手になりになつてはいけないという風潮が高まり、スタジオの権限が強くなつたと言う。後に影響を与えた作品ではある。公開時は149分、DVDでは219分を見ることができる。チミノの好きなダントン・シーンも最初は長いと思つたけどなくてはならないと思う。移民たちを救おうとする保安官ジョンズ（クリス・クリストファー・ソン）がいい。殺し屋ネット（クリストファー・ウォーケン）と同じ女を好きになり、恋愛問題がからんくるけど、若き日のジェフ・ブリッジスも観られて楽しい。

●ジェシー・ジエームズの暗殺（2007、アンドリュー・ドミニク）ジェシー役のブラッド・ピット見たさだつたけど、暗殺するロバート役のケイシー・アフレックが上手い。後ろから撃つ卑怯な男を丁寧に演じている。仲間のひとりのサム・ロックウェルもいい。

自分でもなぜだかよくわからなかつたのは、ひとことで言えばこと。

自分でもなぜだかよくわからなかつたのは、ひとことで言えばこと。

自分でもなぜだかよくわからなかつたのは、ひとことで言えばこと。

劇場公開初日に映画館に観に行つた作品は、これが初めてだつた。一度観て「また観たい」と思つて本当に二度目も観に行つた作品も、これが初めてだつた。

公開前に積極的に前情報を探ししたのもまた、この映画が初めてだつたかもしれない。

ま、それくらい、自分でもよくわからぬいけれどなぜだかこの映画に対する熱量が多かつたという

なぜ宮崎駿監督の最後の作品なのか 『風立ちぬ』

藤井陽子

……要するに、鈴木プロデューサー（以下鈴木P）の策に完全にハマつたという事かもしだれない（笑）。鈴木Pが、「これは宮崎監督の遺言です」と言うから。鈴木Pが、「宮崎監督の最後の映画です」と言うから。鈴木Pが……。もういいか。てへ。

まあでも、鈴木Pは、さすがはプロデューサーなわけで、「観てみようかな」とか「観たい」とと思わせる話を沢山提供してくれたと勝手に思つている。

と、鈴木Pの策にハマつた事にしようとしているけど、本当はそういうやない。

予告作品こそ観てなかつたが、テレビで何度も流れる映画のCMの映像と、バツクで流れる荒井由実の「ひこうき雲」という歌に、あまりにも惹き付けられてしまつたから。

私は、非常にこのパターンが多い。テレビでCMを見てどうしようとだつたからかもしれない。

トしたのもまた、この映画が初めてだつたかもしれない。

「夢は狂氣をはらむ」とは

この映画は、宮崎駿監督が「堀

くらいい。なのでここでは公開しない。てか、どこにも公開しない。

この映画は、美しいアニメーション映像がふんだんで、終始「空」と「風」を感じる作品だった。なので非常に気持ちのよい印象。

代背景に合わせたかのような「音」のマジックも感じられ、ノスタルジックな雰囲気も十分楽しめる。

この映画で出てくる「音」には何とも言えない温かさが含まれているのだ。なぜなら、出てくる「音」の全てが、人の口から発せられたものだから。SEといつて、人の声で作中の音を表現している。人の声に工夫と加工を施して、他では出せない独特な「音」になつてゐる。言つてみれば、音の中にも命の息吹を感じるような。

映画を見てよく泣く私は、この映画もやつぱり泣いた。周りは誰も泣いてない序盤から、二郎の夢に対するまつすぐさときらじた瞳を見ただけで涙を流していた。

だから結局、この映画の最初から最後までずっと泣いていたという希少な人間だ。

越二郎と堀辰雄に敬意を込めて」とボスターで言つていたように、ゼロ戦（海軍零式艦上戦闘機）の

設計技師・堀越二郎と、堀越二郎とミックスした主人公・堀越二郎の物語である。（約30年に渡る二郎の半生を描いた物語）

田舎に育つた二郎少年は、飛行機の設計士になろうと決意し、美しい風のような飛行機を作りたいと夢見る。やがて、大学を出て、大軍需産業のエリート技師となつて才能を開花させ、航空史に残る美しい機体を作り上げる。それが、いわゆるゼロ戦である。このゼロ

戦は、1940年から3年間、世界に傑出した戦闘機だつたらしい。時代は、大正から昭和。1920年代の日本。この頃の日本は、不景気と貧乏と病気と大震災で、生きしていくのがやつとの時代だつたという。そして日本はやがて戦争へと突入していくわけだが、当時の若者はこの時代を一体どのように生きていたのか。それを、断片的にこの映画は描いている。

主要な登場人物は、主人公・二郎の他に、後に彼の妻となる菜穂子、イタリアの航空機設計技師だったカプローニ、二郎の同僚・本

庄、上司・黒川＆黒川夫人、二郎の妹・加代、など。

特にカプローニは、二郎の夢の中にだけ登場するがその存在と映画の中での役割はとても大きく、二郎とカプローニは同じ志を持つ者同士の時空を超えた友情として描かれている。とりわけ、夢の中でカプローニは二郎に何度も問い合わせる。「力を尽くしているかね？」と。

この、「力を尽くして生きる」、これが、この映画の根幹のテーマでもある。映画に添えられたキャッチコピーは、「生きねば。」なのだ。

前述したように、映画の中の時代はとても生き辛い時代だった。そんな、大変な苦境の中でも、自分の力を全くして前に進み生きていく事を、現代を生きる私達に訴えかけているものである。

実は、調べてみれば「風の谷のナウシカ」の漫画版原作第7巻(最終巻)で、最後にナウシカはこう言っているという。「生きねば……」と。

で、この映画のクライマックスでは、妻・菜穂子が二郎に向かってこう言っている。「あなた、生きて！」と。

宮崎監督いわく、現代はこの映画の時代とだいぶ重なる様相を呈しているとか。言われてみれば、不景気や政治の混乱や格差による貧困や大震災など、確かにカブる事は多い。逆に医療面は、現代は当然発達しているゆえ、當時流行っていた結核により菜穂子が命を落とす事はないのだろうなと思う。物質的にも現代は無駄に豊かだから、当時の時代のひつ迫感も今とは重ならない。

ただ、しかし、時代や状況が違つても、人間の生き方は特別変わらないのではないか。自分の人生を、力を尽くして生きる。それは至極重要かつ必要な事で、なぜなら、人生の時間は命と同様有限であるから。では、さて、力を尽くして生きるとはどういう事なのか。

映画で描かれる二郎の生き方を見てみれば、抽象的にでも感じ取れると思うのだ。

二郎青年は、美しい飛行機を作る為に思考錯誤を重ねて、挫折も味わう。無我夢中で勉強してきたし、四六時中飛行機の事を考えているような人だ。飛行機の事を集中すると周りが見えなくなる瞬間も多々ある。

それは、この映画について宮崎

監督が、「自分の夢に忠実に、まつすぐ進んだ人物を描きたかったのである。夢は狂気をはらむ、その毒も隠してはならない」と説明している通り、二郎が夢に向かってひたむきにまっすぐに突き進むがゆえに、狂気に似た空気を醸し出す姿も散見できるという、自分の中での『解釈』でもある。

その二郎の「狂気」が感じられたのは、おそらくだけど、結核を患つて亡くなる菜穂子が入院し、東の間退院して自宅療養の間、布団で横になつてている菜穂子のすぐそばで、大好きなタバコを吸いながら、力を尽くして生きる。それは至極重要な仕事(飛行機の設計図を描く)をして、同時に大好きな菜穂子の手を握つてゐるというシーンではなかつただろうか。(なぜ

「おそらく」かと言うと、私は監督の言う「狂気」を二郎から全く見えてみれば、抽象的にでも感じ取れると言つていいほど感じ取れなかつたから)

このシーン、実は鑑賞後間もなくネットでつらつら読んでいたレビューの中に批判的な声が複数上がつていて、2人の関係性を理解できぬ人が少なからずいる事に腹が立つ思いだったのは確か。

結核という病気の妻の横でタバ

コなんてけしからん！ていう批判。病氣で寝てゐる妻が横にいるのに仕事なんてけしからん！ていう批判。菜穂子と仕事、どつちが大事なんだ！ていう批判。……正直、バカじやね？と思つた。

二郎という人は、そもそもとてもない集中力を持つた人で、特別集中している仕事中はたいていタバコを吸うわけで、菜穂子もそれを知つてゐるわけで。そして、二郎の夢は美しい飛行機を作ることで、菜穂子はそれをどこまでも応援してゐるわけで。だから、何も問題ないのである。それに菜穂子は、愛する人の前ではいつも美しくいたいと願う女性なわけで、美しい飛行機を作りたいと仕事に没頭する二郎を他の誰よりも理解してゐるわけで。だから、何も問題ないのである。要するに、2人の価値観は同じなわけで。だから、何も問題ないのである。わからぬいかなあ。だいたい、「私と仕事とどつちが大事なの？」は、いつの時代も愚問でしかない。「どつちも大事！」。以上。

ちよつと脱線して熱くなつてしまつたけど、要するに二郎は、純粹に自分の夢と愛する人を大事にし続けてゐるだけなのだ。目の前



『風立ちぬ』

の大事ななのに全力で関わり、目の前の大事ななのに全力を尽くしているだけなのだ。それは、夢の中でいつもカプローニから問われる「力を尽くしているかね?」に、二郎が愚直に行動で応えている姿そのものなのだ。なぜ愚直に応えるかと言えば、カプローニは二郎にとつて人生の師でもあるからなのだ。

というふうに、私は、二郎の「狂気」というよりは、二郎の「貪欲なほどの真っ直ぐさ」を感じ取つただけなのだ。

なので、宮崎監督の言う二郎の「狂気」というものが作中に表現されて、目の前の事は単純に自分の好きな事や大事に思つてゐる事だけじゃないから。理不尽や、矛盾や、葛藤や、苦悩……そうしたものを抱える目の前の事も沢山あるからだ。それが好きなもの・大事なものの中側に同時に潜むのなら、尚更簡単にいかない。

葛藤や苦悩は、二郎にも当然あつたはずだと推測できる。人の命を奪う戦闘機じやなく、沢山の人々の夢を乗せて飛ぶ民間機を作りたかつたはずなのだ。自分の作った飛行機が、戦闘機として容赦なく戦争と殺人に使われる事への巨大な葛藤。でも自分は、ただただ美しい飛行機を作りたいんだという純粹な情熱。当然、そこには矛盾

されているとすれば、強いて挙げればその菜穂子とのシーンを真つ先にふらふらと思い浮かべた訳だが、よく考えると、「ここ（そのシーン）じゃない」と思い直す始末。まあ、それはいつたん置いといで、この、「力を尽くして生きる」という事を考えてみると、目の前のこと全力で取り組む。そしてそれを生涯繰り返していく事。シンプルに言えば、そういう事だとうのだ。

でも、これは簡単じやない。だって、目の前の事は単純に自分の好きな事や大事に思つてゐる事だけじゃないから。理不尽や、矛盾や、葛藤や、苦悩……そうしたものがある。それでも人は、目の前にある自分の「仕事」を、淡淡と肅々としかし情熱を放棄せずにいるのだ。

しかし二郎を見ていると、前述した推測や想像とは裏腹に、そのあたりの葛藤や苦悩を感じられないほどだったわけで、それは、二郎がいわゆる「飛行機なのか戦闘機のか」という事では非常に清々しいほど割り切つて考え、至極淡々と至極情熱的に仕事をこなしているように見えたからで。つまりこれが、二郎の本当の「狂気」なのかなと思ひ直したわけである。

要するに、人の命と戦闘機を天秤にかけた時、「戦争に使われ人の命が奪われるもの（戦闘機）を作

を抱え、葛藤を抱き、苦悩しているのではなくのだ。と、私は二郎の心の内を推測する。それでも二郎は、目の前の「仕事」に全力を尽くして取り組むだけなのだ。されど、それはいつたん置いといで、この、「力を尽くして生きる」というある種の潔さと大きな覚悟を常に持つていた。と、私は推測する。

そこには、時として、理不尽な思い、矛盾した状況、抱えきれないほどの葛藤と苦悩……そういうものがある。それでも人は、目の前にある自分の「仕事」を、淡淡と肅々としかし情熱を放棄せずにいるのだ。

しかし二郎を見ていると、前述した推測や想像とは裏腹に、そのあたりの葛藤や苦悩を感じられないほどだったわけで、それは、二郎がいわゆる「飛行機のか戦闘機のか」という事では非常に清々しいほど割り切つて考え、至極淡々と至極情熱的に仕事をこなしているように見えたからで。つまりこれが、二郎の本当の「狂気」なのかなと思ひ直したわけである。

軍事オタクと反戦思想

ごちやごちや書いたけど、ここで一つ。「矛盾」という面で言えば、面白い裏話を鑑賞後にゲットした。宮崎監督は、子供の頃から戦闘機マニアで、今でも戦争や戦闘機に関する知識は軍事オタクそのもの。

るべきではない」という思いに至らなかつたところ、或いはそういう思いが勝たなかつたところ、と

が作りたい。ただそれだけなんだ」と夢に向かつて走り続ける方向に舵を切り続けていられたところ、と言うべきか。その夢の結実がたとえ「戦闘機（ゼロ戦）」であろうとも。

表現は難しいけど、それこそが、監督が言う「夢は狂気をはらむ」という事ではないかと今更ながら思つた次第である。

そことは若干ズレるけど、二郎の「矛盾や葛藤や理不尽を抱えたとしても目の前の仕事に全力で取り組む」姿勢というのは、現代を生きる私達にも十分に通じる仕事への姿勢そのものだと思えて仕方ない。なるほど、この映画の「裏テーマ」が「仕事に対する姿勢」云々だと知れば、納得至極。

2014年9月1日

その分野での造詣が深く、何冊も本が出せるレベルらしい。一方で、徹底した反戦思想の持ち主でもある。そんな宮崎監督に、「その矛盾に対する説明或いは答えを、そろそろ映画の中で出してもいいのではないか」と提案・進言、指示・命令(?)した人物がいる。

鈴木Pだ。

振り返れば、宮崎監督はこれまで作品の中で戦闘機や飛行機を頻繁に登場させ、飛行シーンもお手のものだという印象を受ける。おそらく「ナウシカ」や「紅の豚」や「カリオストロの城」などで監督のやりたい事は思う存分やりきつたのではないか、と言う人もいる。だからそれ以降の作品の中での戦闘機や飛行機＆飛行シーンというものはおまけ的なものだ、と言ふ人もいる。

その論で行けば、この「風立ちぬ」も枝葉末節的な戦闘機・飛行機ものじやないのか、と言う人もいるかもしれない。ええ、そうかもしれない。そしてだとすれば、なぜ今になつてこの映画なのか、という疑問も多少湧いてくる。そこで、この映画を監督の最後の長編映画だと位置づけるのか、と見てながれ、この映画を監督の最後の長編映画だと記憶している。

確かに、戦争前後を経験した世代なら、子供の頃から戦闘機に慣れ親しんできた分、戦争を嫌つていても戦闘機は好きなかも知れない。そういう単純な矛盾を映画の中で説明する事は十分出来るだろう。が、反戦思想という部分を掘り下げる事は?

で、思い返すに、この映画が公開された当時、「集団的自衛権の行使を認めるか否か」憲法9条を解釈的に変えるか」という政治的なテーマが大きく表に出てきた。過去から著名人や識者などがこれらに対する意見や考え方を表明してきている。そこに、ジブリの見解も加わったと見えた。表立つて宮崎監督や鈴木Pが意見を表明した事は過去にあつただろうか、私はわからないが、時期を同じくしてジブリから発信した内容はそのものづくりでこれらのテーマに呼応したものだったと記憶している。

そこで、監督や鈴木Pが「現代は、この映画の時代と非常に似てきている」と分析する背景に、先に述べた政治的なテーマはどう

そこで思い浮かぶのが、鈴木Pの言葉だ。「監督の矛盾を説明する」「監督の矛盾に対する答えを出す」と来て、しかも宮崎ファンが「戦闘機なんて今更だ」と言うならば、決して監督の「戦闘機マニア」の部分ではなく、「反戦思想」の部分に注目したいわけだ。

確かに、戦争前後を経験した世代なら、子供の頃から戦闘機に慣れ親しんできた分、戦争を嫌つていても戦闘機は好きなかも知れない。そういう単純な矛盾を映画の中で説明する事は十分出来るだろう。が、反戦思想という部分を掘り下げる事は?

それは、この「風立ちぬ」に関する監督の言葉にある通りで、「この映画は、戦争を糾弾しようとするものではない。ゼロ戦の優秀さで日本の若者を鼓舞しようといふものでもない。本当は民間機を作りたかったなどとかばう心算もない」という事なのである。監督自身の思想は作品には混ぜ（るつもりは）ないという表明とも取れるわけで、これは監督の言葉を信じるだけである。

だから、この後に続く監督の言葉、「自分の夢に忠実に、まっすぐ突き進んだ人物を描きたかったのである」という事のみがこの映画の核であり、監督が力を込めて訴えたかつた事だと解釈するだけである。

それでも、監督や鈴木Pが「現代は、この映画の時代と非常に似てきている」と分析する背景に、先に述べた政治的なテーマはどうしても絡んでいると思えてならない。そして、それにまつこう意見具申する立場にないしそうするつもりはミジンコもないという事を表明した監督の言葉を信じた上で、この映画の最後のシーンを見ると、あながち「反戦」のカラーを一切混ぜないと表明に疑問符が付く事を追記しておきたい。

わざわざ追記するのは、私自身が反戦思想の持ち主でもあるからで、宮崎監督があえて「弟子」の庵野さん（二郎の声優）の提案を受け入れてまで最後に「そのセリフ」を持ってきた事の意味を、希望的観測として考えたかったからである。希望的観測というのは、監督が映画の中に「反戦」の思想を爪の垢程度でも混ぜてくれていたのなら嬉しいな。そういう意味だ。そしてそれ以上に何もない。

「一機も戻つてきませんでした」これが、映画の中の最後の（二郎の）言葉である。二郎が作ったゼロ戦は、当時の沢山の若者を乗せて大空に何機も羽ばたいて行ったけど、そのうちの一機も戻つて來る事はなかつた。この言葉に、一体どれほどのものが込められているのか、それは個人で様々違つてくると思うのは当然なのだが、

私個人は、二郎の夢の形・象徴であるゼロ戦が、作り上げた二郎のもとに結局欠片も帰つてこなかつた二郎の巨大な喪失感と虚しさと、一方で多くの若者のかけがえのない命が大空に散つたまま家族のもとに帰つてこなかつた巨大な喪失感と怒りが、この淡々とした二郎の言葉に込められていると感じられて仕方なかつたのだ。

そして主題歌の「ひこうき雲」を静かに聴けば、当時ゼロ戦と共に空に散つた沢山の若者への鎮魂歌にも聞こえてくるわけである。宮崎監督が、自身の思想のほんのわずかな欠片でも自分の作品に混ぜる事というのは、本人が一番したくない事・やつてはいけないと思っている事だと勝手に想像している。それが推測の域にとどまらないというこれまで勝手な前提で見ると、初めて映画の中に自分の思想の欠片を混ぜた(つもりだつた)のがこの「風立ちぬ」で、したくない事・やつてはいけない事をしてしまつたという一種の罪悪感からこれを『最後の作品』として位置付けた、と考えるしかな、浅い自分である。

映画の本

「銀幕おもいで話」(高岩淡・双葉文庫)

東映社長、京都撮影所長だった筆者のスターにまつわる思い出ばなし。

俳優に對して悪いことは言わない、同じ金の飯を食つてきた同士だ、節度をもつて語らざるをえない。

そこが少しもの足りないのだが、いい時代の映画屋の自負が伝わってくる。知らなかつたことの数々も。筆者は、壇一雄とは異父兄弟。母親は壇家で4人、高岩家で6人の子供を産んだ。高岩家の先妻の子供4人を含め16人を育てた豪傑だった。壇一雄原作の「火宅の人」で、壇ふみは祖母役を演じた。何かの縁だ。東映には、シナリオライターの比佐芳武、キヤメラマンの川崎新太郎、編集の宮本信太郎など、その道の大親分のような人がいた。編集をめぐつたのはこの編集マンのおかげだった。スピードイーな東映調をつくったのはこの編集マンのおかげと筆者は書く。東映太秦映画村は筆者のアイデアだった。

「あかんやつら 東映京都撮影所

血風録」(春日太一・文藝春秋)

人気のあつた東映時代劇にもいっしかかげりがでてきた。息の根

を止めたのは、誰もが認めるところだが、黒澤明の「用心棒」「椿三

十郎」だろう。重厚な迫力のある

殺陣が、これまでの東映の華麗な

殺陣を打ち碎いたのだ。映画会社

も一つの会社だ。徹夜続きだつた

現場もヒット作がなくなれば、縮

小されて配置転換させられる。俳

優陣も専属契約を切られる。ベテ

ランからやめてもらい、現場の縁

の下の力持ちを大事にしていたと

いうのは、まだ情があつた時代だ

という事とか。任侠映画の台頭で、中村錦之介や監督・沢島正らが東

映を去つた。もうからなければ会

社として成り立たない、大衆の好

みをつかんで映画をつくり続けな

ければならない。飽きられたら、

また新たな路線を探さなければな

らない。当時の岡田社長も営業成績を上げるために必死だ。エロが

当たればエロ映画になりふりかま

らぬ。力金脈」(中島貞夫)、「県警対組織暴力(深作)

暴力(深作)などいくつかの作品

は好みがぴたり一致していた。

わたし大学を卒業する前後の頃のことだった。

監督の田中登が健さんに細かく演技指導をするので、健さんが逆に

(流漂介)

前回載せていただいた「僕のアメコミ映画ランキング」の時点では、まだ観ていなかつたものをDVDで観た分や、映画館に観に行つたアメコミ映画を加えた最新版です。前回から9本プラスされているんですが、主なものの中で今年公開された『マイティ・ソー』、『ダークワールド』と『アメイジング・スパイダーマン2』が観に行けてなく残念ながらもれています。

※新たに加わった作品は太字で書いてあります。

僕のアメコミ映画ランキング

～2014夏～

萩原克憲

特Aランク（すごいおもしろい、すごい好き）	1位 ウルヴァリン X-MEN ZERO	Bランク（あんまりおもしろくない、まあまあ）	22位 バットマン オリジナル・ムービー
	2位 ウオツチメン X-MEN ファースト・エディション	23位 X-MEN フューチャー	
	3位 ジエネレーション X-MEN 2	24位 &パスト	
	4位 アイアンマン3 アベンジャーズ	25位 マン・オブ・スティール	
	5位 アイアンマン2 スーパーマン	26位 ウルヴァリン…SAMURAI	
Aランク（おもしろい、好き）	6位 エクス・ミデン	27位 インクレディブル・ハルク	
	7位 キャプテン・アメリカ	28位 バットマン フォーエバー	
	8位 ダークナイト ライジング	29位 ヘルボーアイ	
	9位 アイアンマン	30位 アイアンマン2	
	10位 バットマン	31位 デアデビル	
	11位 アイアンマン	32位 バットマン&ロビン	
	12位 ダークナイト	33位 フリーズの逆襲	
	13位 アメイジング・スパイダーマン	塞	
	14位 アメイジング・スパイダーマン	34位 スーパーマン リターンズ	
	15位 スパイダーマン	35位 スーパーマン4 最強の敵	
	16位 スパイダーマン3	36位 スーパーマン ファイナル	
	17位 スパイダーマン2	37位 デイシジョン	
	18位 スパイダーマン	38位 ファンタスティック・フォ	
	19位 バットマン・アベンジャーズ	39位 超能力ユニット	
アーミー・ヘルボーイ・ゴールデン・	40位 ハルク	41位 ユーナン	
ヘルボーイ・冒険編	42位 スポーレン	43位 ユーナン	

それでも予告編などを観てなんだか期待に胸ふくらむ感じがないで、でもウルヴァリンの新作だからやつぱり観たくて映画館に行つたんですが……。

この作品、僕の嫌な予感を裏切ってはくれませんでした。つまり、あんまりおもしろくなかった。

エックスマンシリーズであるからにはレベルの高い作品であつてほしいし、ウルヴァリンが出るからはバリバリカッコよく描いてほしいのでどうしてもハードルが上がつていたというのはあると思います。

それにしても僕が映画を観る時や特にこの作品に求めたもの!!ストーリーのおもしろさ、脚本の良さ、アクションのすごさ、エックスマン世界の描き方、魅力的なミュータントの登場、ウルヴァリンのビジュアル的魅せ方、どれをとっても

新たに加えた9本の感想を僕が観た順に並べます。

『ウルヴァリン…SAMURAI』

僕の大好きな「X-MEN」シリーズのこれまた大好きなキャラクター、ウルヴァリンの単独シリーズの新作です。

それでも予告編などを観てなんだか期待に胸ふくらむ感じがないで、でもウルヴァリンの新作だからやつぱり観たくて映画館に行つたんですが……。

この作品、僕の嫌な予感を裏切ってはくれませんでした。つまり、あんまりおもしろくなかった。

エックスマンシリーズであるからにはレベルの高い作品であつてほしいし、ウルヴァリンが出るからはバリバリカッコよく描いてほしいのでどうしてもハードルが上がつていたというのはあると思います。

それにしても僕が映画を観る時や特にこの作品に求めたもの!!ストーリーのおもしろさ、脚本の良さ、アクションのすごさ、エックスマン世界の描き方、魅力的なミュータントの登場、ウルヴァリンのビジュアル的魅せ方、どれをとっても

不満足でした。すごく悪かつたわけじゃないけど特に心をつかまれるものがなかった。

だから、「話はつまんなかったけどアクションはすごかつた。」とか「展開に無理はあるけどウルヴァリンがとにかくカッコよかつた。」とかそういうこともなく、作品全體を通じて僕に特にハマつてくるものが何もありませんでした。

ランディングは、特Aランクにはもちろん入らないで、Aランクにもムリで、Bランクですね。ウルヴァリンという僕のお気に入りのキャラクターの作品にもかかわらず、残念な結果でした……。

『ダークナイト ライジング』

見応えありましたねえ。満足満足です。

前作『ダークナイト』同様ハ

ドで緊張感のある雰囲気はありつつ、前回のように暗く絶望的なものでなかつたので十分楽しめました。

登場キャラクターも敵役ベインも前作の故ヒース・レジャーのジョーカーにはいくらなんでも及ばないもののなかなかの迫力と凄みがあつたし、敵か味方か妖しく動き回るアン・ハサウェイのキャラッ

トゥーマンもかなり魅力的でした。ランディングは、特Aランクには入らないですが、Aランクには入ります。「バットマン」シリーズ最高位となりました。

『ダークナイト』の方がハンパない凄み・緊張感があつてよりすごい作品だとは思うのですが、なにぶん楽しくないのでこの作品の方が『ダークナイト』より上です。

『アイアンマン』とはかなり迷ったんですが、単純にどっちがおもしろいかというと『アイアンマン』が上ですが、スケール感、画面のビジュアルセンスがこの作品は目を見張るものがあるのでそういういつた興奮度を加味してこちらを上にしました。

『ウォッチメン』

この作品、『スパイダーマン』、『バットマン』、『アベンジャーズ』などにくらべて知名度は格段に落ちると思います。実は僕も人に聞くまでは知りませんでした。

友達に『ダークナイト』よりすげえものとして聞いていて観てみたなあと思つてはいて、ようやく観たわけです。

この映画、一見ヒーローたちのデザインもあんまり冴えないし、

トゥーマンもかなり魅力的でした。ランディングは、特Aランクには入らないですが、Aランクには入ります。「バットマン」シリーズ最高位となりました。

『ダークナイト』の方がハンパない凄み・緊張感があつてよりすごい作品だとは思うのですが、なにぶん楽しくないのでこの作品の方が『ダークナイト』より上です。

『アイアンマン』とはかなり迷ったんですが、単純にどっちがおもしろいかというと『アイアンマン』が上ですが、スケール感、画面のビジュアルセンスがこの作品は目を見張るものがあるのでそういういつた興奮度を加味してこちらを上にしました。

世界、地球、歴史の問題まで壮大なふり幅をもつた人間社会のあらゆるエッセンスが一見アホくさい格好をしたヒーローたちの出てくるこの作品に見事につまつています。心の問題から生命としての人類、社会における自警団的ニュアンスの方が強い)や神のような能力を身につけてしまつた男(これもヒーロー?)を登場させることによつて、これだけの壮大なテーマを描き切つてゐるんだなあと思うと、やはりヒーローもののスタイルだからこそ産まれた作品なんだなあ

と納得します。

『デアデビル』

昼は盲目の弁護士、夜は犯罪者と戦うヒーローをベン・アフレックが演じたわけですが、コスチュームがけつこうなカッコ悪さで内容も良くもなくとりたてて悪くもなくあんまりどうということもない作品でした。

もともと知らなかつたし、「すげえ作品」だとは信じられないまま観たんですが、ホントすごかつた 것입니다。『アメコミ映画ランキング』としての評価は『ウォッチメン』の方が上かもしません。

ただ、「アメコミ映画ランキング」となるとキャラクターの魅力、ビジュアルのカッコよさ、アクションの見栄えなども重要な要素になります。

『ウォッチメン』もいわゆるアメリカ映画的な魅力の部分もロールシャッハというキャラのビジュアルイメージはめちゃくちやカッコいいし、アーチーというメカのデザインも僕はすごい好きだつたりくると思います。

『ウォッチメン』もいわゆるアメリカ映画的な魅力の部分もロールシャッハというキャラのビジュアルイメージはめちゃくちやカッコいいし、アーチーというメカのデザインも僕はすごい好きだつたりいいところはいっぱいあるんですが、やっぱり僕の大好きなウルヴァリンがめちゃくちやかつこいい『ウルヴァリン X-MEN ZERO』が1位、『ウォッチメン』は2位にしておきます。

ちょっと魅力的だったのはコリン・ファレルが演じた敵キャラのブルズアイかな。ランディングは、特Aランクなんかもちろん入るわけもなくAランクにも及ばず、でもCランクまで落とすこともないからギリギリBランクの方です。

『アメイジング・スパイダーマン』

僕はサム・ライミ監督のシリーズよりこっちの方が好きですね。でも前シリーズとガラッと変わった感じは思つたよりもゼンゼンなかったです。

ピーターとヒロインの役者の違

いは大きかつたけど、あのイメージはそんなに変わらなかつた。コスチュームのデザインはスパイダーマンはすでにコミックの段階から洗練され完成されていると思うのでいじりようがないのは当然だと思つんですが、アクションやポーリングの見せ方、音楽のイメージなど前シリーズと大差なく、もつと違つた切り口でスパイダーマンを描いてくれても良かつたなあとは思いました。

『マン・オブ・スティール』

でも一番ちがつたと思う。ピータ

ーとヒロインの役者に僕はこのシリーズの方がゼンゼン好感を持ちます。さわやかで良かったです。

ジヨー・エル（スーパーマンの実のお父さん）がクリプトン星と自分たちのために無責任に地球に赤ちゃんとだけ送つたりしたからじゃん！！

そんな納得のいかない気持ちで



『ウルヴァリン：SAMURAI』



『アメイジング・スパイダーマン』



『マン・オブ・スティール』



『キャプテン・アメリカ ウィンター・ソルジャー』

血脇肉躍る時代劇に久しく出会つてない。今は時代劇をつくるスタッフも演じる俳優も数少ない。もはや、チャンバラ映画は滅びゆく運命にあるのかもしれない。日本文化として時代劇を次の時代に残そうとする動きはある感じられない。映画はそれを支持する観客が存在しないことには成立しない。そんな現実の中、いくつかの忘れがたい時代劇が頭をよぎる。もうスクリーンでは無理と思うが、嬉しいことに邦画の旧作が次々とDVD化されているので、あの頃、食い入るようにこれ

数々の時代劇を作っている黒澤明の『椿三十郎』(1962)は、日本の時代劇を変えてしまった。それまでの時代劇の殺陣は、東映『旗本退屈男』シリーズ、市川右太衛門の『諸羽流正眼崩し』がそうであるように舞踊的な動きが中心であった。つまり、『様式美』の世界。見てきれいな殺陣。流れるような斬り合い。斬る役と斬られる役が見事に区分けされてる約束事のチャンバラだった。しかし、黒澤は前作『用心棒』(1961)に引き続きリアルな立ち回りにこだわった。人が斬られる音を聞かせ殺氣あふれた激しい斬り合いを見せた。映画のラスト、仲代達矢の胸から一気に噴出した血しぶきのインパクトが今までの時代劇を軽く超えてしまった。この三船敏郎

甦れ！ 不滅のチャンバラ映画

門馬徳行

らの作品を見つめた自分を再確認できる。当時の活劇の面白さとは、いったいなんだつたろうか。そんなノスタルジーにからなながら、とくに記憶に残るいくつかの時代劇について触れてみるとした。

数々の時代劇を作っている黒澤

明の『椿三十郎』(1962)は、日本の時代劇を変えてしまった。それまでの時代劇の殺陣は、東映

『椿三十郎』のラストを見た東映の関係者は、「これは敵わん！」と思つたらしい。この作品後、各映画会社は次々と残酷描写を強調した時代劇を製作していく。頭が飛び、腕や足がすつ飛んだ。あくどい描写はしitaiにエスカレートしていく。そのことによつて、女性と子供たちの足が映画館から遠のいた。試行錯誤を重ねた東映は、『伝説的集団抗争時代劇』を3本(『十三人の刺客』(1963)、『大殺陣』(1964)、『十一人の侍』(1967))生み出す。どれも注目すべき作品だが、ここでは『十三人の刺客』についてふれたい。

この時代劇にはヒーローはない。13人全員がヒーローとも言える。どうしようもない暴君を暗殺するだけの話なのだが、工藤栄一はまるでこの戦いをドキュメントのように撮つた。手持ちカメラで30分近く死闘を追う。それは今までの東映作品では見られない迫真力のあるチャンバラだった。東映初出演の内田良平が片岡千恵蔵に全身でぶつかり勝負していた。

鞍馬天狗は叫んだ。「日本の夜明けは近い。」

同じ年、『闇の彌太ッペ』(1963)も公開される。これは股旅物の傑作。我が道を行く監督の山下耕作にはなんら黒澤時代劇の影響は感じられない。やつと再会した彌太ッペとお小夜の別れは涙なくしては見れず、あの西部劇『シエーン』のラストを彷彿させると評判になつた。真つ当な流れ者を演じた中村錦之助が、最後果し合いでに向かうのだが、あの後ろ姿にダブつて時代劇の終焉を予感した助監督がいたそうだ。この時、あきらかにチャンバラ映画は斜陽に向かつていた。

大映時代劇と言えば、市川雷蔵の『斬る』(1962)に触れねばなるまい。『椿三十郎』と同年に作

られたこの作品のカメラは一瞬のすきさえ見せない。張りつめた映像がエンドマークまで続く。とくに冒頭の腰元がお家のためと女を刺殺するところから切腹シーンに至るまでの流れるようなカメラワークは戦慄的とも言える。まるで研ぎ澄まされている刃のようだ。父と妹を殺され放浪の末、刺客となる雷蔵のニヒリズムが圧倒的に迫る。三隅研次の職人技が結集した作品だとえよう。河岸の斬り合いで人の体が真二つになるところがあり、唚然としたことを覚えている。雷蔵と言えば、当たり役の『眠狂四郎シリーズ』があるが、ここではもう1本、『薄桜記』(1959)を取り上げたい。監督は森一生。これは忠臣蔵外伝ふうの話になつてゐるが、ある種の青春映画とも、悲痛なメロドラマともいえる。武士社会のモラルと愛の世界との壮絶な闘いを描き、片手足を失つた主人公が雪の中で戦う殺陣が悲壮感を盛り上げた。最後、雷蔵は妻と手を取りながらあとの世に旅立つ。この作品は、近年、欧米で字幕付きで上映されているというから時代劇が日本ばかりではなく世界でも支持されているということだろう。

ささらに池広一夫の演出がさえ渡つた『ひとり狼』(1968)の雷蔵も忘れ難い。人斬りの伊三藏と呼ばれる孤独な無宿者を万感の思いを込めて演じている。駆け落ちする娘にも、そして許さぬ両親にももつともな言い分があり、さらに伊三藏にもそれなりの理屈がある。前述の『闇の彌太ツペ』同様、股旅物の秀作だと思う。

『斬る』と同じ年に『座頭市物語』(1962)も誕生している。座頭市(勝新太郎)と平手造酒(天知茂)との出会いと対決は忘れたがくすばらしい。平手の吐く息の音を聞いて病を知る市の耳。斬りたくて斬るわけではないのに戦わねばならぬ運命。終末、ちょっとしたせめぎあいの後、市は平手を倒す。これも三隅が監督している。その後の座頭市シリーズは明るめの話が多いが、この第1作は陰鬱な物語に終始している。平手を演じた天知茂がしばし脳裏から離れなかつた。

1961年から年に1作ずつ作られた『宮本武蔵』5部作も注目を浴びた。しだいに成長する武蔵を追つた大長編だが、とくに4作目の『宮本武蔵・一乗寺の決斗』(1964)には激しい死闘が描かれる。吉岡一門との18分をこえる決闘シーンが圧巻。夜明けまもないあぜ道で武蔵になり切つた錦之助はひたすら走りまわつて戦う。内田吐夢はここをモノクロで撮る。撮影には3ヶ月もかかつたそうだ。マジック・アワー専門のテレンス・マリック顔負けのだわりようだつた。一部には『七人の侍』を越えるチャンバラだったという評価もあつたと言う。しかし、翌年の『巖流島の決斗』では予算を減らされたせいもあり満足する仕上がりにはならなかつたらしい。東映は、作品の完成度よりも興行成績を優先させたわけだ。内田には千恵蔵主演『大菩薩峠』3部作(1957~9)という秀作もあり、もつと評価されていい監督のひとりだ。

この頃の時代劇スターの中でも近衛十四郎を忘れてはならない。まるで時代劇を演じるために生まれては消えていたかのような活躍は未だに私自身の時代劇の原点は『笛吹童子』(1954)や『紅孔雀』(1954~5)である。それ以来、数々のヒーローが生まれては消えていった。

あの鞍馬天狗が「日本の夜明けは近い!」と叫んだ時、その言葉になんの抵抗も感じなかつた。ほんとに夜明けが来る、と信じ切つたものだ。今、同じようなセリフ

を言える単純明快なヒーローが果たして存在するであろうか。現代社会が置き忘れたものが時代劇には潜んでいる。忍耐とか、謙虚とか、正義とか、恩義とか、死語になりつつある友情とか。もう、そんなものは無用な時代になってしまったのだろうか。そんなもの

お薦め『おしゃべり映画館』

「まめ書房から、『おしゃべり映画館』という本が送られてきた。『書評どうですか?』」使喰する一文が付いていた。小生如きの駄文でよければ、書くのに吝かではないうが、著者の一人である門馬さんは、以前小学生が本を出版した際、大変心の籠つた推薦文を書いて戴いた恩義があるので、「迂闊なことは書けないな」とは書けないな」と思いつつ読み出したのだが、全くの杞憂、まさに〈巻を描く能わざる〉状態に陥ってしまったのである。

理由を考えてみた。小生自身、原稿を書くときに一番苦労するのは、映画の観方はこれでいいのか、他の切り口があるのではないか、この書き方で面白さ・感動が伝えられるのか、書き漏らしたことは

たして存在するであろうか。現代社会が置き忘れたものが時代劇には潜んでいる。忍耐とか、謙虚とか、正義とか、恩義とか、死語になりつつある友情とか。もう、そんなものは無用な時代になってしまったのだろうか。そんなもの

はお荷物な時代になってしまったのだろうか。時代劇の衰退がそのことを如実に示しているのかもしれない。

稀有のアウトローである眠狂四郎は天に向かつて叫んでいる。

「もうこの世に美しいものはない

ないか、ということである。そ

か、それらの苦心をこの本はいと

も簡単にクリアしてしまっている

のだ。だから抵抗なく、すらすら

と読めてしまうのだ。認めたくは

ないのだが、悔しい限りである。

実際に羨望に堪えない。確かに二人

で映画を観た直後に、色々と感想や感動を述べ合えば、気付かなかつたり思いもよらなかつた部分を、

お互いに示唆できるし、認識の修

正も比較的可能である。更に、気

付かなかつたことを気付かされる

ことで、その映画が一層面白くなる

という相乗効果も得られる。一

人より二人の力である。特に、男

性と女性、門馬徳行氏の蘊蓄と岩

館範子女子の感性、全く異なった

特徴を持つお二人がペアを組めば、

その靈験たるやあらたか過ぎて、伏し拌みとなるほどである。門馬さんのこと映画に関する博学ぶ

のか!」

チャンバラ時代劇の復活を望んで止まない。しばし、現実にはありえない勧善懲惡な世界に浸りたい。また、世間に背を向けた一匹狼の世界に没入したい。たとえ命を落としても権力に立ち向かう男

りは言うまでもなく、岩館女子とりは生き続けることができるのだ。

は生憎面識がないのだが、SF映画のベスト1に『ブレードランナ』を挙げるほどのお人だから、

その感性のあっぱれぶりには、太鼓判を押します。

それでも今までに、これはどう楽しく映画を語った本があつたろうか。そこには相手を気遣う

思いやりが溢れている。従つて読み手も、自然と笑みがこぼれるといふ次第。

点数の高いものを抜粋して掲載されたということだが、そしてそ

の評価にはかなりご苦労された

と思う。だが今回『おしゃべり映画館』のイラストを描くという機会

を与えられてとても喜んでいたし、勉強になりましたともいつっていた。

身びいきではなく、出来栄えも悪くないのではなく、私自身も喜んで

いる。そういう意味でも、門馬

・岩館の両氏と関田主幹に感謝しなくてはなるまい。

『おしゃべり映画館』、自信を持

つてお薦めできる一冊です。

(久保嘉之)

その時、その男の胸中に去来する感情は、果して如何なるものであつただろうか？ 耐え難き恥辱。全身を貫く脱力感。惑乱する思惟。十ヶ日程前から不眠不休で対応に当たつていたが、脆くも崩壊した。そして八月十九日。今、この男はここにいる。正確には昭和二十年八月十九日。場所は極東のソ連領ジャリコーウオ。男は職業軍人瀬島龍三、三十四歳。階級は陸軍中佐。ジャリコーウオの恥辱の場には、極東ソ連軍の元帥が五人、威儀を正して着席しており瀬島は一瞬それに威圧らしきものを感じた

その意味に於いて、私は決して彼女の熱心なファンではないのだ。彼女の作品の大多数は現実の事件や事象を色濃く反映しており、物語に出てくる人物も多くは実際に存在している人物と直ぐに類推出来る。山崎は新聞記者出身だった為か、自分が小説化する事件や事象を細かに調べ上げ、驚く程の資料に目を通している。それは、矢張り記者出身だった司馬遼太郎と双璧であろう。

山崎の小説の多くは実在の人物をモデルとしている為、取材に快く協力した人も、自分やその人物を心外に描かれて抜き難い軋轢を

寒い国から還った参謀

鈴木輝夫

が、それを氣取られまいとして無理にも胸を張つた。

次々とベストセラーを書き上げた作家が亡くなつた。山崎豊子である。彼女は『白い巨塔』『華麗なる一族』『大地の子』『運命の人』などなどヒット作を出し続け、死するまでその旺盛な創作意欲は衰えなかつた。映画化やテレビドラマ化された作品も多くあるのが、それらは兎も角、山崎豊子の小説自体を余り多くは読んでいない。

その意味に於いて、私は決して山崎豊子の死を奉ずる記事に接した時、彼女のある小説が頭を過ぎり、昔々に見たその小説を原作にした映画を思い出した。主人公のモデルとなつたと思しきその男に、ずっと若い頃より関心があつたからであり、更には、その人物に就いての驚愕の事実を、昨年のさる月刊誌上で読んだからだ。俄には信じ難い衝撃性を孕んでいたが、著者は確信を持つてそれを断定している。著述した男は、それを知り得る重要な地位にいたのだ。それは後で記す。その映画は『不毛地帯』昭和四十六年度の東宝作品。

主人公は、高級官僚、航空自衛隊幹部らの凄まじい迄の暗躍振りを描いている。だが、山崎の小説の映画化だけに、その事実は兎も角、主な登場人物達は総てといつてよい程、実在の人物がいるのである。私の乏しい知識でも、実在のその人物達は、可成り容易に判る様になつていい。昭和三十三年冬、中年男壱岐正（仲代達矢）の、総合商社近畿商事での面接から始まる。社長大門一三（山形勲）は、何故か、この中年男を痛く気に入り嘱託として入社させる。切れ者の大門社長が、長らく浪人生活をしていた壱岐を入社させたのには、彼の特異な経歴を買つてのことであり、社長の大門にはある壮大な野望が渦巻いていた。こうして、実に一年の空白のある今浦島の壱岐正は、再び『戦争』へと身を投げる事になった。

大門が欲しかつたのは、壱岐の類なき経歴、その怜悧な頭脳、彼の特殊な人脈。この時、壱岐四十五歳。決して、若くはない。彼はこの歳まで何をしていたのか？ 帝国陸軍の軍人。それも超エリートの。陸軍幼年学校、陸軍士官学

2014年9月1日

校、陸軍大学校をいざれもトップクラスで卒業し、若くして、統帥の中心である市ヶ谷三宅坂の大本営陸軍部の参謀になつた。それも超エリートだけがなれる作戦参謀である。昭和二十年八月十五日、大日本帝国は敗戦した。その日、梅津参謀総長（陸軍の用兵・作戦面でのトップ）から、直々の特命を受けた。飽く迄日本帝国の敗戦を認めず、満洲に侵攻してきたソ連軍と戦おうとする関東軍を、説得しに行けという命令である。関東軍とは、対ソ戦に備える為に満州国に駐屯する軍である。時代に因つて数は違うが、敗戦時は七万前後であった。参謀総長の命令は必ず復命しろであつた。詰り、現地で捕虜になつたり死ぬのではなく、生きて帰り報告しろというのだ。

壱岐中佐は、混乱の極み状態の日本を後に、翌十六日、小型機で満洲の関東軍総司令部に着き、関東軍総司令官山田乙三大将、総参謀長秦彦三郎中将以下総司令部の参謀達の前で、大本営梅津参謀総長の停戦命令を伝え、侵攻してきたソ連軍に降伏することが、聖旨（天皇の思し召し）に添い奉る道であると進言する。多くの参謀連中

は憤懣やる方ない体で息巻き、中には大本営特使の壱岐中佐を切るうと軍刀をかざす者までいた。山總司令官や秦總参謀長はそれを押え、何よりも聖旨に添い奉ることが帝国軍人の道であると諭す。かくて、特命を果し終えた壱岐は、梅津参謀総長（陸軍の用兵・作戦面でのトップ）から、直々の特命を受けた。飽く迄日本帝國の敗戦を認めず、満洲に侵攻してきたソ連軍と戦おうとする関東軍を、説得しに行けという命令である。関東軍とは、対ソ戦に備える為に満州国に駐屯する軍である。時代に因つて数は違うが、敗戦時は七万前後であった。参謀総長の命令は必ず復命しろであつた。詰り、現地で捕虜になつたり死ぬのではなく、生きて帰り報告しろというのだ。

壱岐中佐は、混乱の極み状態の山本薩夫監督に因る『不毛地帯』は、勿論、商社間の手段を選ばない汚い手を使つた、激烈なる次期主力戦闘機売り込み合戦を描いて、就中、四十五歳でその渦中に身を投じた男の生き様が最ものメインテーマである。壱岐正を壱岐正たらしめているものは、一体、何なのであろうか？ それは取りも直さず、シベリア抑留体験である。極寒の地での重労働。極めて乏しい食料。課せられる過酷なノルマ。拷問に近いソ連当局の容赦なき尋問。抑留日本兵同士間の想像を絶する反目。弱き者は次々と

は憤懣やる方ない体で息巻き、中には大本営特使の壱岐中佐を切るうと軍刀をかざす者までいた。山總司令官や秦總参謀長はそれを押え、何よりも聖旨に添い奉ることが帝国軍人の道であると諭す。かくて、特命を果し終えた壱岐は、梅津参謀総長（陸軍の用兵・作戦面でのトップ）から、直々の特命を受けた。飽く迄日本帝國の敗戦を認めず、満洲に侵攻してきたソ連軍と戦おうとする関東軍を、説得しに行けという命令である。関東軍とは、対ソ戦に備える為に満州国に駐屯する軍である。時代に因つて数は違うが、敗戦時は七万前後であった。参謀総長の命令は必ず復命しろであつた。詰り、現地で捕虜になつたり死ぬのではなく、生きて帰り報告しろというのだ。

壱岐中佐は、混乱の極み状態の日本を後に、翌十六日、小型機で満洲の関東軍総司令部に着き、関東軍総司令官山田乙三大将、総参謀長秦彦三郎中将以下総司令部の参謀達の前で、大本営梅津参謀総長の停戦命令を伝え、侵攻してきたソ連軍に降伏することが、聖旨（天皇の思し召し）に添い奉る道であると進言する。多くの参謀連中

は憤懣やる方ない体で息巻き、中には大本営特使の壱岐中佐を切るうと軍刀をかざす者までいた。山總司令官や秦總参謀長はそれを押え、何よりも聖旨に添い奉ることが帝国軍人の道であると諭す。かくて、特命を果し終えた壱岐は、梅津参謀総長（陸軍の用兵・作戦面でのトップ）から、直々の特命を受けた。飽く迄日本帝國の敗戦を認めず、満洲に侵攻してきたソ連軍と戦おうとする関東軍を、説得しに行けという命令である。関東軍とは、対ソ戦に備える為に満州国に駐屯する軍である。時代に因つて数は違うが、敗戦時は七万前後であった。参謀総長の命令は必ず復命しろであつた。詰り、現地で捕虜になつたり死ぬのではなく、生きて帰り報告しろというのだ。

壱岐中佐は、混乱の極み状態の山本薩夫監督に因る『不毛地帯』は、勿論、商社間の手段を選ばない汚い手を使つた、激烈なる次期主力戦闘機売り込み合戦を描いて、就中、四十五歳でその渦中に身を投じた男の生き様が最ものメインテーマである。壱岐正を壱岐正たらしめているものは、一体、何なのであろうか？ それは取りも直さず、シベリア抑留体験である。極寒の地での重労働。極めて乏しい食料。課せられる過酷なノルマ。拷問に近いソ連当局の容赦なき尋問。抑留日本兵同士間の想像を絶する反目。弱き者は次々と

倒れて無惨にも凍土に屍を曝し、辛うじて生き残らえている者も、最早、人にあらずして宛ら餓鬼同様に生き残る者もいた。山總司令官や秦總参謀長はそれを押え、何よりも聖旨に添い奉ることが帝国軍人の道であると諭す。かくて、特命を果し終えた壱岐は、梅津参謀総長（陸軍の用兵・作戦面でのトップ）から、直々の特命を受けた。飽く迄日本帝國の敗戦を認めず、満洲に侵攻してきたソ連軍と戦おうとする関東軍を、説得しに行けという命令である。関東軍とは、対ソ戦に備える為に満州国に駐屯する軍である。時代に因つて数は違うが、敗戦時は七万前後であった。参謀総長の命令は必ず復命しろであつた。詰り、現地で捕虜になつたり死ぬのではなく、生きて帰り報告しろというのだ。

壱岐中佐は、混乱の極み状態の日本を後に、翌十六日、小型機で満洲の関東軍総司令部に着き、関東軍総司令官山田乙三大将、総参謀長秦彦三郎中将以下総司令部の参謀達の前で、大本営梅津参謀総長の停戦命令を伝え、侵攻してきたソ連軍に降伏することが、聖旨（天皇の思し召し）に添い奉る道であると進言する。多くの参謀連中

は憤懣やる方ない体で息巻き、中には大本営特使の壱岐中佐を切るうと軍刀をかざす者までいた。山總司令官や秦總参謀長はそれを押え、何よりも聖旨に添い奉ることが帝国軍人の道であると諭す。かくて、特命を果し終えた壱岐は、梅津参謀総長（陸軍の用兵・作戦面でのトップ）から、直々の特命を受けた。飽く迄日本帝國の敗戦を認めず、満洲に侵攻してきたソ連軍と戦おうとする関東軍を、説得しに行けという命令である。関東軍とは、対ソ戦に備える為に満州国に駐屯する軍である。時代に因つて数は違うが、敗戦時は七万前後であった。参謀総長の命令は必ず復命しろであつた。詰り、現地で捕虜になつたり死ぬのではなく、生きて帰り報告しろというのだ。

壱岐中佐は、混乱の極み状態の山本薩夫監督に因る『不毛地帯』は、勿論、商社間の手段を選ばない汚い手を使つた、激烈なる次期主力戦闘機売り込み合戦を描いて、就中、四十五歳でその渦中に身を投じた男の生き様が最ものメインテーマである。壱岐正を壱岐正たらしめているものは、一体、何なのであろうか？ それは取りも直さず、シベリア抑留体験である。極寒の地での重労働。極めて乏しい食料。課せられる過酷なノルマ。拷問に近いソ連当局の容赦なき尋問。抑留日本兵同士間の想像を絶する反目。弱き者は次々と

倒れて無惨にも凍土に屍を曝し、辛うじて生き残らえている者も、最早、人にあらずして宛ら餓鬼同様に生き残る者もいた。山總司令官や秦總参謀長はそれを押え、何よりも聖旨に添い奉ることが帝国軍人の道であると諭す。かくて、特命を果し終えた壱岐は、梅津参謀総長（陸軍の用兵・作戦面でのトップ）から、直々の特命を受けた。飽く迄日本帝國の敗戦を認めず、満洲に侵攻してきたソ連軍と戦おうとする関東軍を、説得しに行けという命令である。関東軍とは、対ソ戦に備える為に満州国に駐屯する軍である。時代に因つて数は違うが、敗戦時は七万前後であった。参謀総長の命令は必ず復命しろであつた。詰り、現地で捕虜になつたり死ぬのではなく、生きて帰り報告しろというのだ。

薩夫の視点は終始一貫してマルキストのそれではあるのだが、平板な公式論的なつまらなさを極力廢して、或いは出来る限り見せない様にして、観客達の娯楽心を巧妙に操る術を心憎い程十全に知り尽している。

それはあざといといえる迄に功
みで、笑つたり、泣いたり、怒つ
たりしているうちに、或いは、エ
ロチックな場面で助平心（！？）を
抱いたりしているうちに、何時の
間にか彼の思想に絡め取られてい
る。決して声高には「政治」を語
らないし、決して露骨には「主義」
などは主張しない。興味こ散して

様に見せて いる。

かり知識のある人ならモデルとなる
った実在の人物は容易に想像が付
く、特に、暗躍した政治家達はそ
の肩書や言動から直ぐに判るし、
なかでも、「悪の巨魁」などはソツ
クリさんまで登場して笑いを誘つ
てくれる。特に、二、三シーンし

か出てこないのだが、反つ歯で知られる当時の首相のソックリさんは、思わず失笑して仕舞う程の面白さがあるのだが、余りにもカルカチュアが行過ぎて、いる為か、却

つてリアルティーを欠く感がある。後期の彼の作品にはよくこれが認められた。山本薩夫の映画の多くは、この様な物事を極単純化して正邪いずれかと簡単に二分して仕舞う傾向が色濃く、見たその時は笑いを誘う面白さではあるのだが、人物や事象を深く考えさせる陰翳感に乏しい故、作品の持つていた真のテーマを矮小化させる怨みがある。

物事や人間は簡単に二分化出来る程に単純ではなく、多くは混沌として実に曖昧模糊なるものであり、絶対善も絶対悪もありはしないのだ。超極悪人といわれている人でも、考えられない様な神の如しの善行をする時もあり、聖人といわれている人でも、悪魔の所行かと考へるしかない様な行為をする時もあるのだ。詰り、本来人なりものは摩訶不思議な存在なのである。人間は矛盾の直中のうちに生きているのであり、善でもあり悪でもありというカオスが根本ではなかろうか……。

山崎の小説『不毛地帯』は、山本薩夫に取つて映画化し易い絶好の素材であつた筈だ。時の政権党である自民党の政治家達が巨額の金を巡つて暗躍し、巨大商社は有

つてリアルティーを欠く感がある。後期の彼の作品にはよくこれが認められた。山本薩夫の映画の多くは、この様な物事を極単純化して正邪いはずれかと簡単に二分して仕舞う傾向が色濃く、見たその時は笑いを誘う面白さではあるのだが、人物や事象を深く考えさせる陰翳感に乏しい故、作品の持つていた真のテーマを矮小化させる怨みがある。

無をいわさぬ強引きで次期主力戦闘機を売り込む。小説でも映画でも仮名（殆ど、実名と同じではあるが……）ではあるが、誰が見たつて実在のそれらは判るであろう近畿商事は伊藤忠であり、そのライバルの東京商事は丸紅であり、更に米国の航空機メーカーは、ランキード社は勿論ロッキード社でその戦闘機はF-104、ライバルメーカーはグラント社としているが、無論それはグラマン社である。機種はF-100である。

その他、三菱商事や住友商事や三井物産も出てくる。勿論、それらも直ぐ判る仮名にしているが。そして、彼らが売り込もうとしている米国戦闘機の直ぐ判る仮名も

出る。何が何でも売り込もうとする巨大商社、汚い裏金で国家までも売る政権党の政治家、明晰な頭脳を強かに駆使して画策するキヤリア官僚、保身を常に考えて立ち回る自衛隊幹部。山本薩夫には、是非にも映画化したい素材と考えただろう。

この『不毛地帯』という映画は奇しくも、昭和五十一年に制作されていて。この年、前首相が五億円の収賄容疑で起訴されるという前代未聞のことが起つた。(ロツ

キード事件」である。彼の名、田中角栄。これは軍用機ではなく、民間の旅客機の売り込みに、現役の首相が賄賂を貰つて関与したものであった。世間は囂々たる非難の声で溢れたのだが、山本薩夫にはその非難の声も追風になつたのであろう。壱岐正のシベリア抑留を描くよりも、昭和三十年代半ば当時の総合商社や政治家達や官僚達の底なしの腐敗を、より強く描くことに心を碎いたのではないか。その方が、當時現実として起つていたロッキード事件を、より浮彫りにさせると考へたのでは……。その辺りに山本薩夫の政治信条を垣間見る。彼の政治信条が一番よく現われているシーンが、壱岐の高校生の娘（秋吉久美子）が面と向かって壱岐を詰るシーンである。少し長いが書き出してみる。

「おとうさんはこの間の新安保

2014年9月1日

右翼と手を組んで政府は民主主義を私達の血でけがした上に踏みにじつたのよ。新安保条約なんて私達認めないわ。ジェット戦闘機なんて私達誰も欲しいとは思つてないわ。おとうさんの様な父親を持つて、私恥ずかしいーつ」

〔60年安保〕（昭和三十五年）と称された一大政治運動は、労働者、学生、左翼知識人達の大デモ隊が十重二十重と国会を取り囲み、彼らは口々に「アンポ反対ーつ、岸倒せーつ」と連日叫び、日本中は大混乱となつた。結果、岸内閣は倒れた。恐らく、山本薩夫も進歩的文化人の一人として、そのデモに加わつていただろう。デモに加わらない輩は、保守反動と見做されたのだから……。秋吉久美子の叫びは、山本薩夫の叫びでもあるのだ。

ここからは、冒頭に記した衝撃的事実に就いて記す。映画館で『不毛地帯』を見てから四十年近く経つた今、再びこの映画を是非にも見たくなつた要因は、実にこの人物の書いた驚きの一文に因る。『不毛地帯』の主人公壱岐正なる人は、果して、如何なる実在の人物

がモデルとなつてているのか？

それは衆目の一致する処、伊藤忠商事の会長にまでなつた瀬島龍三元陸軍中佐である。瀬島龍三の歩んだ軌跡は、細部に於いて違いはあるものの多くの点で壱岐正のそれと一致する。尤も著者の山崎豊子は、「シベリア抑留体験を持つ、多数の元関東軍將校を含む三百七十七人に取材した」と答えておりし、「壱岐正の人物像は、瀬島だけではなく、何人もの軍人のイメージを重ね合わせて作り上げたもの」とも断つてゐる。

当時まだ生存中であつた瀬島は、世間に根深く流布した——壱岐

瀬島説——に対し、取材した記者

に対して、「私はあの書を読んでい

ない」と答えてゐる。山崎も瀬島

も表面的には壱岐＝瀬島説を否定

しているし、『不毛地帯』で描かれた主人公の軌跡には、瀬島自身の

人生の歩みとは違う描写もしばし

ば見られるのではあるが、それでもなお、トータルとして考えてみると、壱岐は瀬島龍三自身と重なるといわざるを得ない。

ここに一冊の本がある。衝撃的一文に就いて書く前、この本に関する限り、私はこの話は、終戦直後

史。特に軍事史や日本軍の戦闘に詳しい、ノンフィクション作家の保阪正康である。この本が発行さ

ら発行されている。著者は、昭和

史、特に軍事史や日本軍の戦闘に詳しい、ノンフィクション作家の

保阪正康である。この本が発行さ

れた昭和六十二年当時は、瀬島の幼少時代を知る地元の人々や陸軍

学校などの同級生、更には伊藤忠

商事の社員や元社員、陸軍の先輩

後輩の將校、シベリア抑留経験者、

多数生存しており、保阪とそのス

タッフ達は、彼らに片つ端から話を聞いたのである。

保阪とそのスタッフ達は、精力

的な取材振りをみせ、瀬島龍三の

光と影を鮮烈に炙り出していく。

いや、より正確に記せば影の中の

影ともいえる最暗部だ。最早、与

えられた紙幅も尽き様としている。

急げ。ずばり書く。——関東軍作

戦參謀瀬島龍三中佐は、ソ連軍との停戦協議の場で、六十万余に及ぶ日本軍將兵や民間人のシベリア

抑留に同意した。彼ら六十万余の

軍人・民間人は、「國家賠償」として、ソ連邦に売られた——、といふ

少しあは知つていたのだが、保阪正康は数多くの人物にインタビューをして、それをじっくりと炙り出している。保阪は決して断定的にそうだとは決め付けてはいないのだが、インタビューした人物達の言葉から、更には残されている当時の資料類など、そして遠く米国にまで飛び、昭和二十年代に米国が取つた占領政策の細かい資料まで漁り、——停戦協議に当つた瀬島中佐らに因る、日本將兵シベリア抑留国家賠償説——を、濃厚に感じざるを得ないと筆致で書いてゐる。では、当の瀬島は、その問題を如何に釈明しているのか？ 平成七年に瀬島は産経新聞社及び扶桑社から、回想録『幾山河』を出版しているのだが、当然、その中で完全に密約説を虚構と否定し、関東軍總司令官の山田乙三大将も、ジリコーウオでソ連軍と停戦協定を結んだ関東軍總參謀長の秦彦三郎中将や、自分自身（瀬島龍三関東軍作戰參謀）にも、勿論、そんな権限はなし、更には、相手側のソ連極東軍總司令官にも、ソ連当局からそんな権限は与えられていなかつた、と記しているのだが……。

密約説を主張したのは、主に、

全国戦後強制抑留補償要求推進協議会という団体、通称、全抑協と称されているシベリア抑留者で作る団体である。昭和二十年八月十九日、極東ソ連軍と関東軍との間で停戦の協議がおこなわれた。日本側は秦總參謀長、瀬島作戰參謀、それにロシア語に堪能なハルビン總領事宮川舟夫、ソ連側はワシレフスキーノ連極東軍總司令官以下の五人の元帥、そして数名の彼の幕僚達であった。交渉した日本側三人のうち、秦中將は昭和三十一年帰国したが三十四年に多くをらず病死しているし、宮川ハルビン總領事も昭和二十五年ソ連のラーゲリで病死している。

瀬島は書いてきた様に、その後は商社マンとなつて副社長や会長などを歴任し、更には臨時行政調査会という政府機関で重要な地位を占めるに至る。それは前に設けられたものと区別する為、「第二臨調」といわれた。所謂、「土光臨調」である。そこでも瀬島は他の委員を押えて、絶大な力を奮つている。瀬島は平成の世まで長く生きたが、自身の十一年間のシベリア抑留体験や全抑協の人々が指弾する密約説に就いて、通り一遍の話や短い反論だけに終始していて、

多くの人々が知りたいと思つてゐる事柄にきつとは答えていない。保阪が『瀬島龍三 參謀の昭和史』を書き上げている時、瀬島は彼のインタビューを長い時間受けているが、そこでも本質的質問には答えず、通り一遍の回答に終始していた。

瀬島は例の「極東軍事裁判」にも、ソ連側の証人としてわざわざ抑留中のソ連から連れてこられ、裁判に出廷させられているのだ。小説『不毛地帯』では、そこが前半の大きなヤマ場の一つになるのだが、何故か、映画『不毛地帯』では全く描かれていない。因みに、近年放送された唐沢寿明主演のテレビ版『不毛地帯』では、そこの処の葛藤やシベリア抑留の想像を絶する苦悩などが、可成り精緻に描かれていたのだが……。矢張り、オールドマルキストの山本薩夫では、そこまで望むのは所詮無理な注文なのか？

なお、この愚論の冒頭に書いた昭和二十年八月十九日の瀬島中佐の話は、保阪の著書や瀬島の自伝やワシレフスキーノ元帥の回想録、更にはその他の資料を参考にして、私が想像して書いた戯文もどきの一文である。

多くの人々が知りたいと思つてゐる事柄にきつとは答えていない。ようようにして結びに辿り着いた。私が四十年近く前に見た映画『不毛地帯』を、再びじっくりと見たいと思った真の理由である。昨年十月に発行されたさる月刊誌であるが、その十月号の主テーマは必ずしもそれではなかつたのに、表紙に堂々とそのタイトルが書かれていたのだ。曰く、——瀬島龍三はソ連の「協力者」だつた——。正に、驚愕。それを書いた人物は、小説『不毛地帯』では、そこが前半の大きなヤマ場の一つになるのだが、何故か、映画『不毛地帯』では全く描かれていない。因みに、近年放送された唐沢寿明主演のテレビ版『不毛地帯』では、そこの処の葛藤やシベリア抑留の想像を絶する苦悩などが、可成り精緻に描かれていたのだが……。矢張り、オールドマルキストの山本薩夫では、そこまで望むのは所詮無理な注文なのか？

なお、この愚論の冒頭に書いた昭和二十年八月十九日の瀬島中佐の話は、保阪の著書や瀬島の自伝やワシレフスキーノ元帥の回想録、更にはその他の資料を参考にして、私が想像して書いた戯文もどきの一文である。

さて、この映画『不毛地帯』は、彼の専門性が滲み出でていて何れも大変に参考になつた。佐々は各国のスペイやテロや情報などの専門家で、カウンターパートナーであるI A・F B I、英國ではM I 6、イスラエルではモサド、更に、ロシアではK G B (!) まで……。勿論、ギブ・アンド・テイクであり、特に友好国でない国とは、それがなりの駆引きがあるのだが……。情報戦争は複雑怪奇なのである。

そんな佐々淳行が、あの瀬島龍三をソ連の協力者だつたとはつきり断定した事実に、しばし驚いた。彼は警察庁や警視庁の外事や公安などの部門を歩き、しかも警視監(その上の階級は、警察庁長官と警視総監の二人だけ)という最高幹部の一人であつたのだ。であるから、警察庁や警視庁の最高機密を知り得る立場にいた筈だ。

日本に於けるソ連に因るスペイ事件は数多く起こつてゐるが、佐々は、「ラストボロフ事件」に瀬島龍三の影を見ている。このスペイ事件は、昭和二十九年、駐日ソ連大使館のラストボロフ二等書記官が、米国に政治亡命したのが事件

2014年9月1日

の発端だ。彼の表の顔は書記官であつたが、その裏の顔は、ソ連内務省所属の陸軍中佐で、秘密裏に日本での諜報活動をしていたのだ。ラストボロフ中佐は、日本での諜報活動を米国当局に總て自白した。七ヶ月後、日本で奇妙な反応が起つた。警視庁に二人の旧日本軍軍人が自首したのだ。志位正二元少佐と朝枝繁春元少佐だ。志位元少佐は関東軍第三方面軍情報主任参謀、朝枝元少佐は大本営情報参謀で敗戦時に關東軍に出張していた為、そのまま捕虜になりシベリアに抑留されていた。志位元少佐は戦後、外務省アジア局第二課に勤務していた、れっきとした外務省職員であったのだ。ラストボロフの自白したスパイ網には、三十六人の日本人が関わっていたらしく。多くはシベリア抑留体験者や彼らにリクルートされた人達である。問題の瀬島はこの当時まだ

シベリアに抑留されていて、この事件には直接関係はしていない。が、志位元少佐と朝枝元少佐が警視庁に逮捕されると、真贋合わせて様々な情報が飛び交い、シベリア抑留の赤裸々な実態を語つたりア抑留の赤裸々な実態を語つたり出版したりする者が次々と現われた。(それまでもあつたが……)

若きキヤリアの佐々(恐らく、警視であつただろう)は、この頃、最終的段階に入つていたラストボロフ事件の、洗い出し捜査の継続を命じられていた。(佐々はスペイ網の洗い出し捜査を、"残党狩り"、"落穂拾い"と書いている)その捜査の中で瀬島に注目した。

その頃、日本に帰国した瀬島は伊藤忠に入社してサラリーマンになつていたが、佐々は捜査の中では瀬島とソ連との徒ならぬ関係をしばしば感じる様になり、その事実を最トップに上げた。それは捜査している外事課の総意でもあつたが、

何故か、最トップはその上申を却下して仕舞つた。

佐々は今でも瀬島はソ連軍・KGBのアクチブであり、スリーパーであつたと確信している。シベリア抑留者の中にその様な人物は数多く存在したのは事実であったが、彼らの横の関係はソ連当局から固く禁じられていた為、果して誰がアクチブであるかは彼ら自身にも全く判らず、唯々、ソ連からの連絡を待つのみであつた。スペイは孤独である。紙幅がいよいよなくなつた。急げ急げ。昭和六年、東芝機械のソ連への工作機械不正輸出事件が発覚した。これも相談役に退いていた瀬島の裏工作があつたと断定している。極々簡単に記せば、この不正輸出で、ソ連海軍の潜水艦のスクリューアクション。実際に数奇な人生を歩んだ男は、多くの謎を残したまま生涯を終つた。果して、将来、その謎は明らかになるのであろうか?

映画『不毛地帯』を再び見て、壱岐正に就いてじっくりと考えた。否、正確には瀬島龍三をだ。大本當參謀、関東軍參謀、伊藤忠会長、經濟界重鎮、中曾根首相有力ブレーン。実に数奇な人生を歩んだ男は、多くの謎を残したまま生涯を終つた。果して、将来、その謎は明らかになるのであろうか?

了

至福の時で、幸せを感じます。関口健一||今年の冬は寒さが厳しかったので、映画はWOWOWで鑑賞してました。わたくしのテレビの画面は小さいので、迫力に欠けます。やっぱり映画は、大きなスクリーンで見た方が良いですね。

中田好美||最近は、NACK5ラ

ジオのファンキーフライデーをよく聞いています。交通川柳や道のコーナーがお気に入りです。小林克也さんといつか読まれたいと、日の丸のステッカーを目指し投稿

に自分の仕事の一部を委譲し楽をしています。週末は映画を楽しんでおります。6月観たのは「チョコレートドーナツ」「WOOD JOB!」「アクト・オブ・キリング」「ノア」「罪の手ざわり」「春を背つて」「私の男」です。最近、油絵を描き始めました。65歳になつた

山下雄平||相変わらず商売に励んでおりますが、最近は徐々に息子

ら個展を開く目標を持ちました。鶴田聖二「バランスを取るつていうことは、まん中に支点を置くことでは決してなくて、支点を動かしながらつり合いの取れる位置を搜すつてことだと僕は思うんだけどなア…」

門馬徳行 「スウェーデンやデンマークのミステリー・ドラマ（TVシリーズ）がアメリカでリメイクされている。北欧作品はどうどろしき人間関係が謎めき、投げ出すような結末も余韻を残す。が、再制作されたドラマは大胆に脚色され娛樂性豊かな展開になっている。要是は一旦放映された話をどう再構築していくのか、ということだろう。まったく同じだつたら誰も見ない

久保嘉之 「近況（事故）報告

六月九日の朝八時ごろ、幹線道路を営業車で走行中のことだった左側の農道をかなりの速さでこちらへ向かってくる車を認めてはいたのだが、

「まさか、な」次の瞬間、もの凄い衝撃と共に、私の車は大きく右へ傾いた。

「嘘だろ、何で一旦停止しない」

まず思つたのがそれで、次に車は傾いたまま動いていたので、「絶対倒れる!」ということだった。どうにか転倒は免れたものの、車は反対車線に百八十度回転して止まつた。ホッとしたのも束の間、とりあえず報告をと会社に無線連絡していると、ひどい吐き気が襲つた。鶴田聖二「バランスを取るつていうことは、まん中に支点を置くことでは決してなくて、支点を動かしながらつり合いの取れる位置を搜すつてことだと僕は思うんだけどなア…」

そのためには、なにをやつてもいいのかと、どうぞが問題。『ゴジラ』も公開され、リメイクの波は収まりそうもないが、見る者を納得させてくれる作品になつてほしいと、ただ願うばかりである。

岩館範子 新しいデジカメを買いました。一眼レフでなくとも、ミニチュアのような写真や魚眼レンズを使つたような写真などが撮れるんです。とっても楽しみです。最近は映画を観ては、ハンサム探しをしています。好きとかイケメンとは別です。いち押しはマイケル・ファスベンダーです。売れてても地味な俳優探しも楽しいですよ。最近の映画ベスト1は『チヨコレートドーナツ』です。

てきた。ハンドルに突つ伏し堪えていると、吐き気は少し収まつたものの、今度は右側頭部が痛み出した。鈍痛だが、かなりしつこい。農道から本線にでる処は少し上り坂となっており、つまり私の車は左横下から押し上げられる形となつたため大きく傾き、その際窓ガラスに頭を打ちつけたのらし。相手は右折しようとしていたらしく、中央から後部座席にかけてやや斜めにぶつかってきたので、そのためスピンしたと思われる。そのままの姿勢でいたら、相手の運転手が近寄ってきて、私の状態を見るなりすぐに救急車を呼んでくれた。若いあんちやんだつた悪い人間ではないとみて、電話

萩原克憲||ハルクがなぜか好きな5歳の娘に買つてあげたハルクのアクションフィギュアで最近、2歳の妹まで遊びます。「ハルクで遊ぶ姉妹つてどうなの……?」みたに思います。が、寝かしたハルクにフトンをかけて子守唄を歌つたり、遊び方は女の子です……。

関田孝正||去年の暮あたりから朝新聞を読む時間が増えた。特定秘密保護法、それに次いで集団的自衛権のニュースが連日報道されたり、その成り行きが大変気にならだ。どちらにも私は反対する。前者は戦時中の治安維持法のようなものらしいし、後者の行使容認は戦争への歯止めがなくなる不安がある。首相の「心配いりますを掛けながら、粉々に砕けて私の身体に降りいかつた窓ガラスの破片を、払い落としてくれたのを覚えている。

不幸中の幸いだったと思えるのは、まず車が横転しなかつたこと。反対車線に向かって向車がいなかつたこと、そしてお客様が乗車されなかつたこと、だろう。この内のひとつでも条件を満たしていれば死亡事故になつたかもしれない。まだある。相手の車が斜め下からぶつかってきた所為で、衝撃がかなり上側へ抜けた点も挙げられるだろう。真横から直撃されていたら、どうなつていただけない。何しろ減速なしの、ノン・ストップである。後日、動かなくなつた

せん、日本は今以上に平和になりません」との発言は、とても首肯できません。自民党と社会党が票を分け合つていたバランスのとれたいた時代を懐かしく思い出す。昼食後は散歩の毎日だ。家の近くに利根運河（日本一長い。明治の頃は海上交通路だったが今は導水路）や江戸川があり、その土手沿いを歩いている。桜の季節こそ人が出るが、ふだんはあまり人とも会わざのんびりと、ときには国に行く末を案じながら（それは嘘）歩を進める。江戸川沿いは田園風景が広がり、運河沿いは木々の緑が心地よい。

車を搬送した馴染みの修理屋さんに、「よくこれで無事でしたね」と感心されたほどだ。悪運はまだ残っていたようである。

C T・レントゲン共に異常は認められず、頭の痛みはぶつけた際の脳震盪によるものだらうということだつた。割と丈夫というか、しぶとい体質なようだ。

——車を運転される方に限らず、交通事故は決して他人事ではありません。どうか、くれぐれもお気を付けください。

幼児誘拐事件の顛末を描く『ミステリー・サスペンスの傑作

●重層的な登場人物の造形

映画は、幼児誘拐事件の顛末を描いている。

幼児誘拐というと、宮崎勤の事件や未解決の北関東連続幼女誘拐殺人事件を思い出す。むごたらしいばかりだ。犯人はおぞましい病に罹っているとしかいえない。「北関東！」の方も犯人がだいたい特定されているが、これを認めると警察の失態が公になるため、あえて逮捕圏外に追いやられているという。詳しくは、犯人と思しき人物に取材した清水潔の「殺人犯はそこにいる隠蔽された北関東連続幼女誘拐殺人事件」（新潮社）をお読みいただきたい。映画では、エイ・イーストウッドの傑作「チエンジリング」があつた。

さて、この映画。郊外の雨上りの路上にぽつんと停車している怪しいキャンピングカーの周りで遊び不安な展開に、悲惨な結末は遠慮したいとの気持をまず抱く。

プリズナーズ

登場人物の造形が重層的。人間なら一面的に見ることはできない、いろいろな側面をもつてゐるはずだとする描き方だ。人間描写に厚みが出る。

犯人の異常性もさることながら、被害者の父親ドーヴィー（ビニー・ジャックマン）が異常な行動に出る。容疑者が口走った「ただ遊んでいただけ」とか、娘しか知らない替え歌を口ずさんでいたことから犯人に間違いないと信じ込む。我が子を救出したいという当たり前の思いがなせる業なのだが、問題がないと釈放された容疑者アレクサンダー（ポール・ダノ）を監禁・

●神への戦い？

事件を追うロキ刑事は、担当した事件はすべて解決してしまった。秀な刑事だ。官僚的でなく、被害者家族の無理も聞く耳をもつていい。なんとかして子どもをみつけたいのだ。ドーヴィーの父親はかつて自死しており、それが本人の暴力性に関係しているのかもしれない。

ドーヴィーは、家族を守れないようでは家長としての資格がないと強く思っている。息子には強く育つてほしいと期待をかけている。親子での鹿狩りのシーンで、息子

が一発の銃弾で仕留めるのを讀える。父親としては息子の成長に満足しているのだ。かつてはアル中だったのだろう。今はアルコールを断つているが、ドーヴィーの行動を不審に思つたロキ刑事（ジエイク・ギレンホール）に尾行されたことを契機に酒を飲み始める。理不尽な自らの行動のためか、娘がみつからない苦痛をまぎらわせるために。息子は飲んだくれる父を非難する。息子は父親の弱さを知つていて。

親を現れる——。誘拐された子供たちはどこに？ 生きているのか？ 死んでしまつたのだろう。今はアルコールの存在が全編をおおう。自らの行為に許しを請うドーヴィー、犯行の動機を「神への戦い」だと言い切る犯人。神の不在を嘆いて信仰がゆがんでしまつたのだ。

見ごたえのあるミステリー・サスペンスの傑作。ドーヴィーと息子の関係をもう少し描いてほしかったが、これ以上要求することは高望みというものかもしれない。アーロン・クジコウスキのオリジナルシナリオ。2009年の未映画化優秀脚本であるグラックリスト賞（第4位）を受賞している。監督は、「灼熱の魂」（カナダ）で2011年アカデミー賞外国語映画賞にノミネートされたドゥニ・ヴィルヌーヴ。（関田孝正）

に対して、子供を何人も誘拐して殺したという男を告解罪を赦すなどと証明する。この死体は誰だ？